

# 菖蒲池遺跡

—米倉山ニュータウン建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

1996年3月

山梨県教育委員会

山梨県土地開発公社



菖蒲池遺跡SP031遺物出土状況【南西→】



菖蒲池遺跡第2調査区 (SH002エリア) 【東→】

## 序

本書は、山梨県土地開発公社による「米倉山ニュータウン整備事業」に伴い発掘調査が実施された菖蒲池遺跡の調査成果をまとめたものです。

本遺跡の所在する山梨県東八代郡中道町は、甲府盆地の南端部に位置し、遺跡が濃密に分布する地域として広く知られております。特に弥生時代後期～古墳時代前期にかけては、「方形周溝墓群で著名な上の平遺跡、山梨県唯一の前方後方墳である小平沢古墳、国史跡にも指定されている銚子塚古墳附丸山塚古墳に代表される大型の前方後円墳など山梨県を代表する遺跡が多数存在します。

今回、調査の対象となった菖蒲池遺跡は、中道町から東西の両方向に延びる曾根丘陵の一角を占める米倉山の山頂付近に展開しておりました。この発掘調査には1992年5月6日～同年12月25日までの約8カ月間を要し、調査対象面積約50,000m<sup>2</sup>の遺跡有無確認のための試掘調査および約7,000m<sup>2</sup>におよぶ面的な本発掘調査が実施されました。その結果、旧石器時代から近現代に至る遺構・遺物が検出され、特に弥生時代中期初頭を中心とした時期の「再葬墓」と見られる土坑や遺物は山梨県内では比較的に希有な出土事例となりました。また、遺構は全く把握されなかったものの、古墳時代前期の土器も多量に出土しており、調査担当者は「水辺の祭祀」に関わるものではないかと推測しております。

以上のように、様々な内容を包括する菖蒲池遺跡であります。今後に残されたま提起される研究課題も数多くあるものと思われます。本報告書を通じて多くの方々に調査研究資料として、あるいは地域の歴史を探るために資料としてご活用いただければ、これに勝る喜びはありません。

文末ではありますが、発掘調査から報告書刊行に至るまでご支援・ご協力を賜りました関係機関各位、並びに調査に従事していただいた皆様に厚く御礼申し上げ、序文とさせていただきます。

1996年3月

山梨県埋蔵文化財センター  
所長 大塚 初重

## 【例　　言】

1. 本書は、山梨県東八代郡中道町下向山字菖蒲池所在の遺跡の発掘調査報告書である。
2. 今回の調査対象地の遺跡名称については、1950年代以降に「米倉山遺跡」「米倉山A遺跡」「菖蒲池・三枚畠遺跡」などと呼称されてきた経過がある。しかし、本書では調査時点において最新の遺跡名であり、中道町教育委員会が周知していた名称である「菖蒲池遺跡」を採ったものである。
3. 調査原因は山梨県土地開発公社による「米倉山ニュータウン」建設であり、山梨県教育委員会が同公社からの委託を受けて実施した。なお、発掘調査および整理調査は山梨県埋蔵文化財センターが実施した。
4. 本書の編集および付録以外の執筆は森原明廣が担当した。
5. 写真撮影は発掘調査（遺構）では森原・早川典孝が、整理調査（遺物）では森原が担当した。
6. 土坑の土壤分析については、パリノ・サーヴェイ社に業務委託し、その成果は本書に付録として記載した。
7. 菖蒲池遺跡の資料（遺物・図面・写真等の諸記録）は一括して、山梨県埋蔵文化財センターに保管している。
10. 発掘調査・整理調査に際して、下記の方々からご協力・ご教示を賜った。記して感謝申し上げる。  
中道町役場、中道町教育委員会、帝京大学山梨文化財研究所、山梨県考古学協会、甲斐丘陵考古学研究会、林部光（中道町教育委員会）  
(順不同・敬称略)
11. 菖蒲池遺跡の発掘調査・整理調査に関わる組織は下記のとおりである。

調査主体 山梨県教育委員会

調査担当 山梨県埋蔵文化財センター（文化財主事 森原明廣・文化財主事 早川典孝）

調査参加 秋山満洲朗・小清水清隆・石井閑造・井上文一・大森朝一・立川なつじ・深沢すてこ・秋山みづえ・芦沢よし子・芦沢留市・深田春子・野田たま・保坂なじ・佐野せい子・志茂博・西田やすえ・小笠原巖村・中西恵美子・丸山ひろ江・矢崎阿い子・小林利雄・小林佐和子・中沢敏雄・西脇誠・武田きく江・岡口愛子・宮久保あさの・後藤達雄・大村力・飯寄貞子・寿盛正雄・猪股久美子・大森仁美・伊藤正彦・志田幸江・志田由記子・中込星子・中島則雄・米永静子・米永孝・菱山喜美子・堀内良子・中込冬美・小林三恵・長谷川巖・千野富子・飯寄洋子・春秋夫・桜林豊・梶原富蔵・萩原光代・後藤美和子・池谷さち子・手嶋陽子・渡辺峰子・長田久江・長田てる美

(順不同・敬称略)

## 【凡　　例】

1. 遺構番号は発見順に付したものであり、時期・位置等とは無関係である。なお、遺構名称のうちS Pは土坑、S Dは溝、S Xは集石を示す。なお、付録にある「第●●号土坑」の表現は「S P 0●●」に等しい。
2. 遺構図（遺物出土状況図）中のドットマークの用例は下記のとおりである。  
●……土器　△……黒曜石片　□……礫
4. 遺構図中の断面図等にある数値は標高を示す。
5. 遺構図・全体図などに示した方位（N）は国土座標による真北である。
6. 色（覆土・土器胎土等）の説明には「標準色帖（1990年版）」（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財團法人日本色彩研究所色票監修）に基づいて記述した。

## 【本文 目次】

第Ⅰ章 調査の経緯・経過 .....	1 p
第Ⅱ章 遺跡環境 .....	1 p
第1節 地理的環境 .....	1 p
第2節 歴史的環境 .....	1 p
第Ⅲ章 調査方法と基本層位 .....	4 p
第1節 調査方法 .....	4 p
第2節 遺跡の層位 .....	6 p
第Ⅳ章 発見された遺構と遺物 .....	6 p
第1節 遺構および遺構内出土遺物 .....	6 p
第2節 遺構外出土遺物 .....	13 p
第Ⅴ章 考察 .....	21 p
第1節 菖蒲池遺跡出土の遺物について .....	21 p
第2節 菖蒲池遺跡検出の遺構について .....	22 p
第3節 菖蒲池遺跡について .....	23 p
付 編 菖蒲池遺跡リン分析報告 .....	46 p

## 【図版 (Fig.) 目次】

Fig. 1 遺跡位置図 .....	2 p
Fig. 2 遺跡周辺図 .....	3 p
Fig. 3 調査位置図 .....	4 p
Fig. 4 遺跡全体図 .....	5 p
Fig. 5 SP031・P034遺構図 .....	25 p
Fig. 6 SP032・P079遺構図 .....	26 p
Fig. 7 SP080・P082遺構図 .....	27 p
Fig. 8 SP002・033・035・036遺構図 .....	28 p
Fig. 9 SP038・040・044・071・073遺構図 .....	29 p
Fig. 10 SP072・078・083・084遺構図 .....	30 p
Fig. 11 SD001・002・SX001・002遺構図 .....	31 p
Fig. 12 SP031・032・003・082・033・044・084・036・079出土遺物図 .....	32 p
Fig. 13 SP034・080出土遺物図 .....	33 p
Fig. 14 遺構外出土遺物分布図 .....	34 p
Fig. 15 遺構外出土遺物図① .....	35 p
Fig. 16 遺構外出土遺物図② .....	36 p
Fig. 17 遺構外出土遺物図③ .....	37 p
Fig. 18 遺構外出土遺物図④ .....	38 p
Fig. 19 遺構外出土遺物図⑤ .....	39 p
Fig. 20 遺構外出土遺物図⑥ .....	40 p
Fig. 21 遺構外出土遺物図⑦ .....	41 p
Fig. 22 遺構外出土遺物図⑧ .....	42 p
Fig. 23 遺構外出土遺物図⑨ .....	43 p
Fig. 24 遺構外出土遺物図⑩ .....	44 p
Fig. 25 遺構外出土石器分布図・遺構外出土遺物図⑪ .....	45 p

## 【写真図版 (Pl.) 目次】

Pl. 1 遺構-1 (土坑①)	
Pl. 2 遺構-2 (土坑②)	
Pl. 3 遺構-3 (土坑③・遺跡全景)	
Pl. 4 遺構-4 (土坑④・溝・集石)	
Pl. 5 調査風景はか	
Pl. 6 遺物-1 (遺構内①)	
Pl. 7 遺物-2 (遺構内②・遺構外①)	
Pl. 8 遺物-3 (遺構外②)	
Pl. 9 遺物-4 (遺構外③)	
Pl. 10 遺物-5 (遺構外④)	

## 第Ⅰ章 経緯と経過

菖蒲池遺跡の発掘調査は山梨県土地開発公社による「米倉山ニュータウン整備事業」に先立つものとして実施された。この事業は米倉山の南側斜面域のほぼ全域を対象とする「甲府地域テクノポリス開発構想 曽根丘陵地帯開発」の一環であり、大規模な土地造成を行う必要があった。しかしながら、当該地周辺は埋蔵文化財包蔵地の集中域であり、自ずと開発工事と文化財保護の調整を早期に図る必要が生じた。よって昭和62・63年度には中道町教育委員会による遺跡範囲確認調査が実施されることとなり、工事計画範囲内に菖蒲池遺跡や米倉山B遺跡などが存在することが明らかにされた。この分布調査の結果などから県教育委員会学術文化課と県土地開発公社間による調整協議が行われ、工事着手前に記録保存のための発掘調査を行なうこととなり、県埋蔵文化財センターが調査を担当することとなった。発掘調査には平成4年（1992年）5月6日から同年12月25日までのおよそ8カ月を要し、整理調査については、平成4年度から平成7年度にかけて断続的に実施され、平成8年（1996年）3月に本報告書を刊行するに至った。なお、関係法令に基づく主たる事務手続きは以下のとおりである。

平成4年4月 文化庁長官宛てに、文化財保護法第98条の2第1項に基づく「埋蔵文化財発掘調査の通知」を提出

平成4年12月 南甲府警察署長宛てに、文化財保護法第98条の3に基づく「埋蔵文化財の見見通知」を提出

## 第Ⅱ章 遺跡の環境

### 第1節 地理的環境

菖蒲池遺跡は甲府盆地の南端部に位置する東八代郡中道町下向山字菖蒲池にある。この地は甲府盆地の南端部、東西約15kmに渡って広がる「曾根丘陵」の一角をなす米倉山（標高380m）の山頂部周辺にあたる。この米倉山は甲府盆地から一見すると独立丘の形状を見せるが、実際には甲府盆地側に突出した丘陵端部地形であり、その地形をくるみこむように東側から北側に滝戸川が、南側から北側に七覚川がそれぞれ北流している。この両河川は米倉山北側で合流、直ちに笛吹川とさらに合流する。甲府盆地の北東側から南端部を流れてきた笛吹川はその後甲府盆地南西端部を流れ、長野県諏訪方面からの流れである釜無川と合流し、富士川となり甲府盆地を離れ、静岡県を経由し太平洋へと注ぐ。

米倉山山頂から北側には甲府盆地全域を見渡すことができる。また、南側には御坂山地を構成する日陰山（標高1025m）や滝戸山（標高1220m）から続くなだらかな北傾斜地を望むことができ、御坂山地のかなたに富士山（標高3776m）の山頂部端がほんのわずかに垣間見えるというロケーションである。今回、調査の対象となった地区は、米倉山山頂部からやや南東側に広がる南向きの緩斜面地である。ここにはカルデラ状（実際には西側が開口する馬蹄形）を呈す窪地が存在し、その最深部には地名の由来となる「菖蒲池」と呼称される小規模な湧水（調査時点では直径約15m程度の池）がある。この池やその周辺から湧出した水は小川となり、窪地の西側から流下し、先述の七覚川に注いでいる。

### 第2節 歴史的環境

菖蒲池遺跡の所在する米倉山周辺には多数の埋蔵文化財包蔵地がすでに確認されている。その分布内容については、中道町教育委員会による分布調査報告「米倉山地域遺跡詳細分布調査報告書」に詳細に述べられており、ここで再述することは避けるが、旧石器時代から近現代まで幅広い時期の遺跡が確認されている。また、中道町周辺には数多くの遺跡があり、特に米倉山の東側、東山とよばれる丘陵端部には弥生時代から古墳時代にかけての重要な遺跡がひしめいており、その一部は「甲斐風土記の丘公園」として整備・活用されている状況である。ここでは主要な遺跡の分布状況をFig.2に示すに留め、詳細は各文献に譲る。

なお、特に米倉山については古くから「遺跡の宝庫」として知られ、多くの考古学研究者らによる調査研究の対象とされてきた。この菖蒲池遺跡の周囲でも過去に複数回の発掘調査（ポイント的な試掘調査）が行われ、「米倉山遺跡」「米倉山A遺跡」など呼称がまちまちだった経過もある（例言でも触れたが、本報告では「菖蒲池遺跡」を探った）。

これまでの調査研究では、特に山梨県地域の旧石器時代および弥生時代を代表する遺跡として知られてきた。それぞれの調査の意義や評価についてここで詳説する必要はないと思われるが、旧石器時代については米倉山出土の石器についての評価をめぐつていくつかの論考があり、弥生時代については県内では数少ない弥生時代の条痕文系土器を

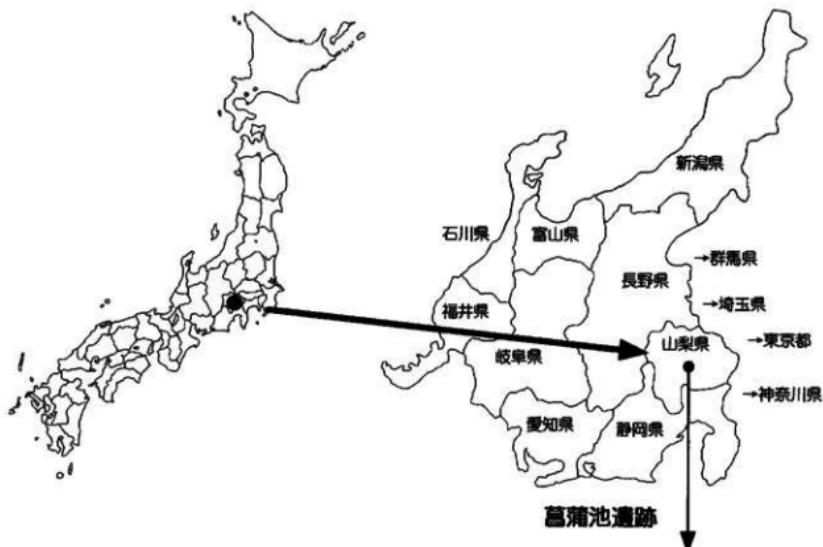
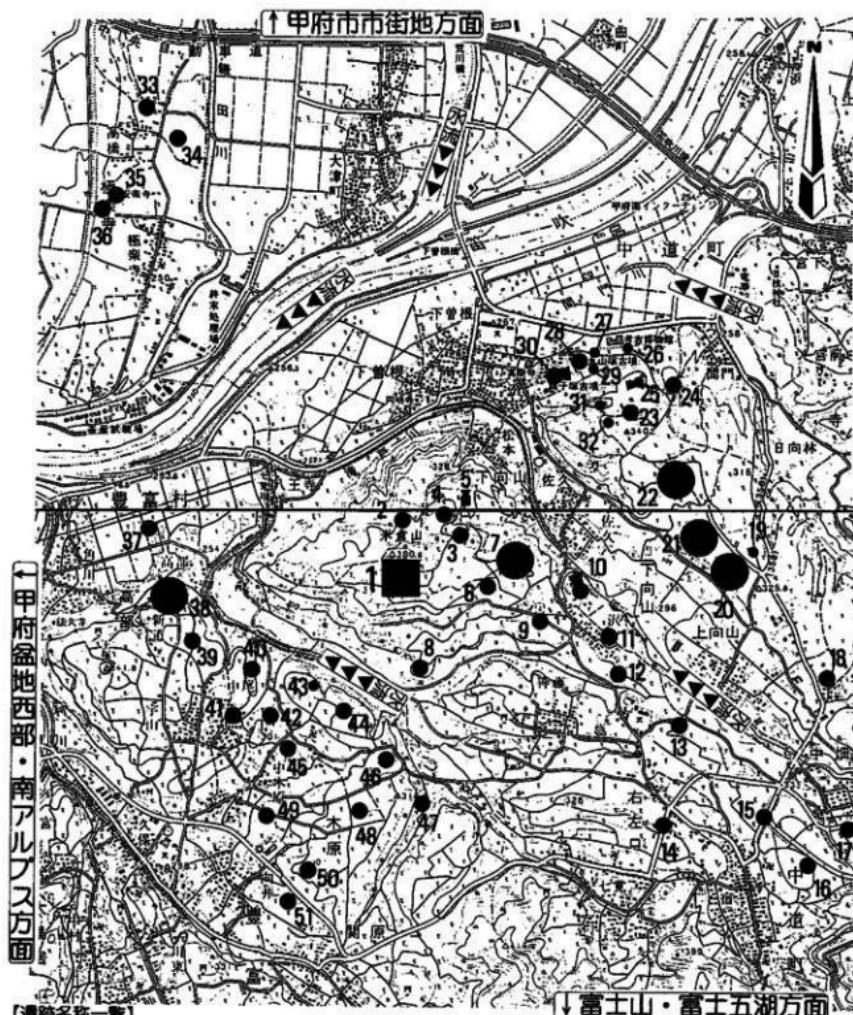


Fig. 1 遺跡位置図



【遺跡名称一覧】

(1~32 東八代郡中道町所在)

- 1.葛蒲池遺跡
- 2.女沢遺跡
- 3.小生坂遺跡
- 4.小平沢遺跡
- 5.小平沢古墳
- 6.小平遺跡
- 7.米倉山B遺跡
- 8.溝水遺跡
- 9.前山・三畳遺跡
- 10.天神山遺跡
- 11.金沢天神遺跡
- 12.下向山遺跡
- 13.向山遺跡
- 14.後呂遺跡
- 15.上野原遺跡
- 16.城越遺跡
- 17.村上遺跡
- 18.深訪南遺跡
- 19.熊久保遺跡
- 20.立石遺跡
- 21.宮の上遺跡
- 22.上の平遺跡
- 23.東山遺跡
- 24.東山北遺跡
- 25.大丸山古墳
- 26.博物館構内古墳
- 27.茶塚古墳
- 28.丸山塚古墳(国史跡)
- 29.岩清水遺跡
- 30.銚子塚古墳(国史跡)
- 31.鍋弦塚
- 32.狐塚古墳

(32~36 中巨摩郡玉穂町所在)

- 33.北河原遺跡
- 34.神明遺跡
- 35.下河原第1遺跡
- 36.下河原第2遺跡

(37~51 東八代郡豊富村所在)

- 37.明治遺跡
- 38.高郡宇山平遺跡
- 39.中尾遺跡
- 40.関沢遺跡
- 41.代中遺跡
- 42.代中東遺跡

Fig. 2 遺跡周辺図

- 出土する弥生文化成立期の遺跡として取り上げられてきている。以下、主たる関連文献を掲げておきたい。
- 山本寿々雄 1952年 「山梨米倉山道跡試掘概報 (いはゆるA地点)」「那土の於ける文化遺産」(続々篇) 山梨県東八代郡西部教育会
- 山本寿々雄 1952年 「甲斐に於ける縄文式文化終末と弥生式文化的問題—米倉山B地点、鶴の島遺跡出土土器を中心として—」 山梨県東八代郡西部教育会
- 山内清男 1952年 「第二トレンチ」「吉胡貝塚」 山本寿々雄 1955年 「山梨県下に於ける無土器文化の調査 (予報) —米倉山の例—」「石器時代」1-1 石器時代文化研究会
- 山本寿々雄 1957年 「山梨県東八代郡米倉山B道跡」「日本考古学年報」5 日本考古学協会
- 山本寿々雄 1957年 「山梨県東八代郡米倉山道跡」「日本考古学年報」7 日本考古学協会
- 谷口一夫・川崎昌宏 1966年 「山梨県米倉山出土の縄石器と細石器」「甲斐考古」1 山梨県考古学会
- 都留文科大学考古学研究会 1968年 「山梨県東八代郡中道町米倉山道跡第一トレンチ出土の遺物について」「甲斐考古」5-1 山梨県考古学会
- 小林広和 1972年 「米倉山先土器遺物考」「甲斐考古」10-1 山梨県考古学会
- 保坂康夫 1985年 「山梨県下の先土器時代資料の検討—1—」「研究紀要」2 山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター
- 中山誠二 1985年 「甲斐における弥生文化の成立」「研究紀要」2 山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター
- 中道町教育委員会 1989年 「米倉山地域遺跡詳細分布調査報告書」

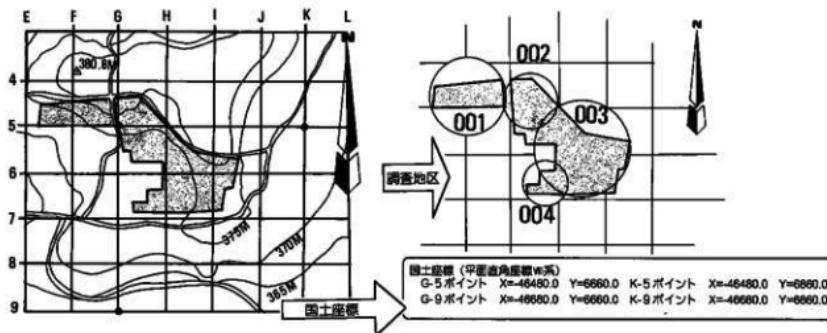


Fig. 3 調査位置図

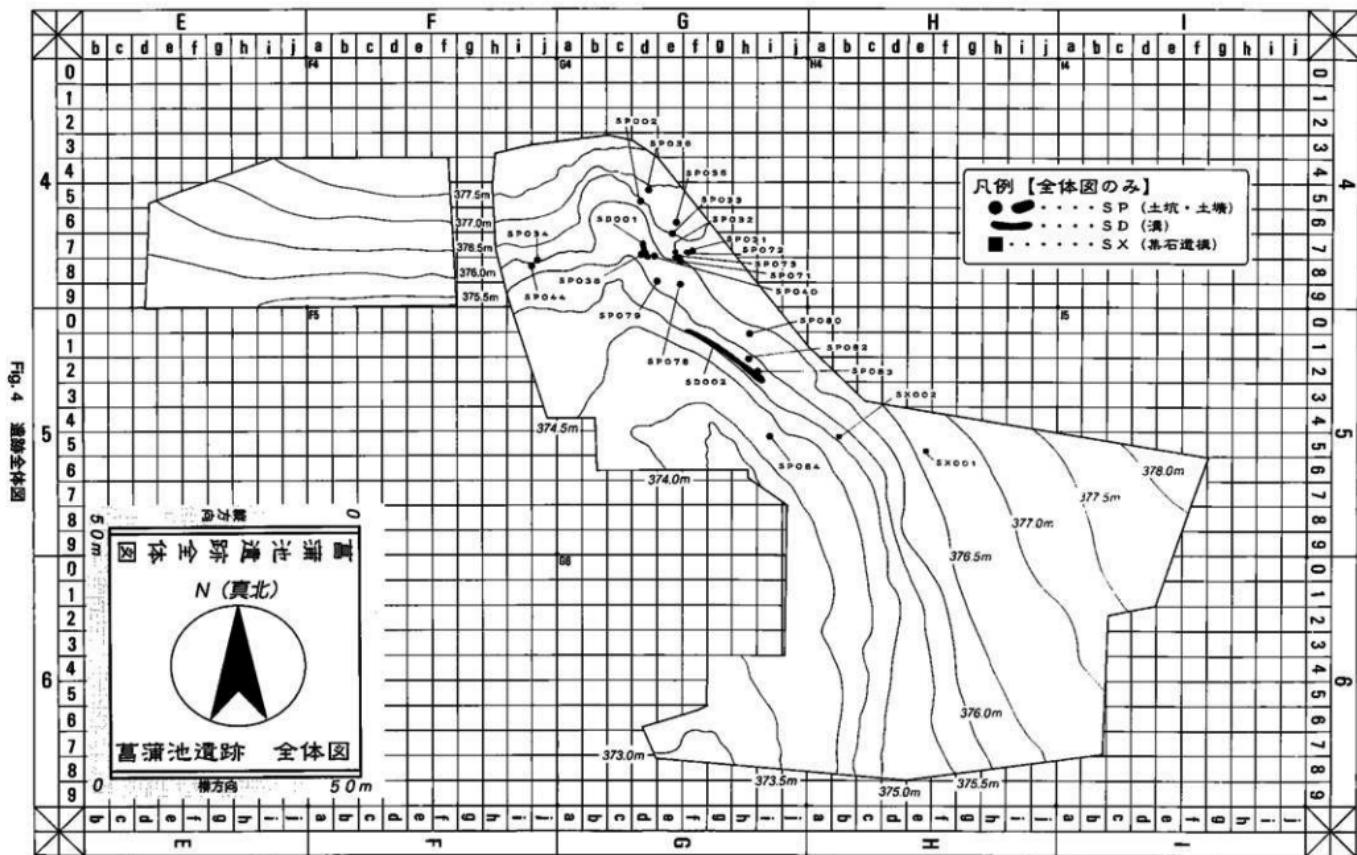
### 第Ⅲ章 調査方法と基本層位

#### 第1節 調査方法

菖蒲池遺跡の遺跡範囲については、昭和63年の中道町教育委員会による分布調査で大凡把握できていた。しかし、対象とした面積約50,000m<sup>2</sup>の範囲全体について、より詳細な内容を把握し本調査範囲を確定するための試掘調査を行なう必要があった。この調査は1.5m×10m程度のトレンチを計120本設定して行ない、およそ2カ月を費やすことになった。この試掘調査に基づき、約7,000m<sup>2</sup>について面的な調査が必要と判断し本調査に移行した。結果的には、前述の昭和63年分布調査で把握された「菖蒲池遺跡」の範囲の南西部分を含む範囲を本調査対象としたこととなる。なお、菖蒲池遺跡の北側から東側部分については、開発区域から外れており、1996年3月時点では從前どおり畠地として利用されている状態であり、遺跡の大半は現地に残存している。

本調査を実施した範囲はFig. 3のとおりであり、その内容はFig. 4に示した。調査区全体は50m×50mの大グリッド (北西端の交点名で呼称、例えばFig. 4の北西隅の大グリッド名はE-4区となる) で区画し、大Grid内をさらに5m×5mの小グリッド (北西端の交点名で呼称、例えばFig. 4の北西隅の小グリッド名はb-0区となる) に区画し、記録等の基本とした。なお、調査時には調査条件 (土砂搬出や土地買収の都合) により、この範囲を4つの地区 (SH001エリア～SH004エリア) に分割し実施しており、その範囲概略はFig. 3のとおりである。

調査は表土層の重機による除去のあと、人力による各グリッドの掘下げ→出土遺物の出土地点記録→造構検出→造構ごとの記録を繰り返し行なった。なお、遺物の出土状況については、ほぼすべてについて出土地点をトータル・ス



ーションにより記録し、そのコンピュータデータはフロッピーディスク等に保存している。また、遺構出土の遺物のうち、必要なものについてはコンピュータデータに加えて出土状況図面を作成し記録した。

## 第2章 遺跡の基本層位

菖蒲池遺跡の基本層位については、右図のとおりである。基本的には第Ⅰ層から第Ⅳ層までに分層される。第Ⅰ層は表土層であり厳密には地点毎に若干の差異がある耕作土という性格上、あえて区分しなかった。第Ⅱ層は調査区の全体に分布する暗茶褐色土であり、特に遺構の集中するSH001からSH003のエリアでは弥生時代～古墳時代の遺物を含む特徴がある。第Ⅲ層はカルデラ状地形の中心部（水が湧く谷部分）のみに分布する黒色土であり、第Ⅱ層同様に遺物を含む。第Ⅳ層はローム層である。最上層部分が特に締まるためa層として区分した。なお、調査では大半の時間を第Ⅰ～Ⅲ層の掘り下げに要したが、最終段階において第Ⅳ層をポイント的に深く試掘した。しかしながら、予測した旧石器時代の遺物等は全く確認できない状態であった。

第Ⅰ層	青褐色土 耕作土
第Ⅱ層	中茶褐色土 遺物包含層土 調査区全般に分布
第Ⅲ層	烏骨色土 遺物包含層 水の底層のみに存在
第Ⅳ-a層	青土 ローム層の最上位層 やや堅化するため分層
第Ⅳ-b層	青土 ローム層

## 第IV章 発見された遺構と遺物

菖蒲池遺跡の発掘調査において確認された遺構は土坑19基（うち、一定量以上の弥生時代の遺物を伴うもの7基）、溝2条（時期不明）、集石遺構2基（時期不明）である。これらの遺構はSH002エリア全域およびSH003エリアの北側部分に集中しており、その他の地点では明確な遺構（近現代の耕作に伴うもの以外）は確認できなかった。特に遺構の主体となる土坑群はSH002エリアの南向斜面に小谷があり込む地形を取り巻くように位置している特徴がある。

また、発見された遺物は遺構内出土1,300点と遺構外出土13,194点の合計で14,494点であり、圧倒的に遺構外出土遺物が多い。内容については後述するが、主体となるのは弥生時代および古墳時代前期の土器であった。

### 第1節 遺構および遺構内出土遺物

#### (1) 土坑

検出された土坑は19基である。いずれも発見順に「SPO〇〇」と呼称しており、ここでは一定量（20点）以上の弥生時代の遺物を伴う土坑であるSP031、032、034、035、079、080、082の7基について先に記述し、その後に遺物をあまり含まない土坑について記述するものとする。

SP031（遺構：Fig.24・Pl.1および巻頭図版下段 遺物：Fig.12・Pl.6・Tab.4）

（位置） 調査区の北側、SH002エリアの東側部分、大グリッドG-4区の小グリッドf-7区に位置する。  
（重複） 西側にあるSP072と重複しており、新旧関係はSP031の方が新しいことが断面観察から判明している。  
（形状） やや歪む不整円形の平面形を呈し、断面形状は台形でフラスコ状にオーバーハングする箇所が認められた。  
（規模） 長軸（南北）1.62m×短軸（東西）1.55m、確認面から床面までの深さ0.28m（最深部）を測る。  
（底面） 床面は平坦ではあるが、小穴がいくつもある状況である。  
（遺物） 出土点数は32点であり、土器21点・礫9点（砂岩を合計2kg）・黒曜石片1点・石鎌1点となる。これらのうち、図示したのは16点である。1は太い沈線文に充填繩文（磨消繩文？）が施される小形壺である。底部全面および肩部（肩部文様帯は四方向へ突出する）には単節LRの細かい繩文が不規則に施され、体部文様の主となる太い沈線文内は丁寧に研磨されている。2は尖る口縁端部直下にヘラ状工具による鋭角的な刻み（単に押圧したのではなく切り抜くような刻みであり、突出部分の横断面が方形になるようなもの）が施される突帯が巡り、頸部に横方向および縱方向の条痕文が連続して施される壺の破片である。12は沈線区画文（区画内は無文）が施される壺の頸部、13・14は沈線区画文内に棒状工具の先端による連続刺突文が充填されるものである。また、3～6・11・15は單一方向の条痕文（11・15は壺あるいは壺の底部）、7～10は羽状の条痕文が施されるものである。黒曜石については、16の石鎌が1点出土しているほかに剥片が1点ある。

（補足） 1) 遺物は底面から浮いた状態で出土しているものが多い（半完形の1は口縁部を上にした正位ではある

が、底面から約8cm浮いた状態で出土している)。

- 2) 合計2kgにおよぶ拳大程度の礫(砂岩)が出土しているが、これらは土坑底面に近い部分で出土する傾向があった。なお、これまでの肉眼観察では礫が火熱を受けた痕跡等は確認されていないが、科学的分析を行ったわけではなく結論付けはできていない。
- 2) 覆土のリン分析の結果、4層と小形壺(1)内覆土にリン成分が多く含まれていることが判明している。
- 3) 他の検出土坑あるいは上層の耕作状況から見て、深い土坑(少なくとも深さ50cm程度以上)の底部付近のみが残存したものと考えられ、遺物の出土位置も原位置を失っているものが多いのではないかと推測される。

**SP032 (遺構: Fig. 6・Pl. 1 遺物: Fig. 12・Pl. 6・Tab. 4)**

- (位置) 調査区の北側、SH002エリアの東側、大グリッドG-4の小グリッドe-7区に位置する。
- (重複) 北側にはSP033などの土坑が存在するが、重複関係はない。
- (形状) 不整円形の平面形を呈すが、本来は正円形に近い平面形状であったことが推測される。断面形状は台形で壁はやや傾斜気味に立ち上がる。
- (規模) 長軸(東西) 1.84m×短軸(南北) 1.67m、確認面から床面までの深さ0.14m(最深部)を測る。
- (底面) 底面には大小様々な小穴があり、特に土坑の中心部に集中する傾向があった。
- (遺物) 出土点数は23点であり、土器16点・黒曜石片5点。これらのうち、図示したのは16点である。1は甕(あるいはになる可能性あり)の底部から肩部であり、胴部全体に横方向の条痕文が施される。また、底部には網代痕が残る。2は口縁端部上にヘラ状工具による刻みが施され、その下に横方向の条痕文が施される甕である。3は尖る口縁部直下にヘラ状工具による刻みが施される突帯が巡る壺、4~17は單一方向の条痕文が施されるものである。18は沈線による区画文が施される壺頂部である。黒曜石については、剥片(チップ含む)が5点ある。
- (補足) 1) 遺物は底面から浮いた状態で出土しているものが多い。特に1は口縁部を土坑内部に向けるように横倒して出土しているものの、やはり底面からは数cm浮いた状態である。
- 2) 覆土のリン分析の結果、特に1層と3層にリン成分が多く含まれていることが判明している。  
また、同時に実施した覆土から検出された白色物質のX線解析では、炭酸カルシウムとの結果が出されており、貝殻等である可能性も指摘されている。
- 3) 他の検出土坑あるいは上層の耕作状況から見て、深い土坑(少なくとも深さ50cm程度以上)の底部付近のみが残存したものと考えられ、遺物の出土位置も原位置を失っているものが多いのではないかと推測される。

**SP034 (遺構: Fig. 5・Pl. 1.2 遺物: Fig. 13・Pl. 6・Tab. 4)**

- (位置) 調査区の北側、SH002エリアの西側、大グリッドF-4の小グリッドj-8区に位置する。
- (重複) SP044と隣接するが、重複関係はない。
- (形状) ほぼ正円形の平面形を呈し、断面形状は台形である。壁は垂直気味に立ち上がる。
- (規模) 長軸(南北) 1.41m×短軸1.39m、確認面から床面までの深さ0.68m(最深部)を測る。
- (底面) 底面には大小様々な小穴があり、特に土坑の縁辺部に偏る傾向があった。また、壁面も凸凹しており、滑らかではない。
- (遺物) 出土点数は146点であり、土器85点・甕6点(砂岩を合計4kg)・黒曜石片50点・石錐4点・打製石斧1点となる。これらのうち、図示したのは54点である。1は直立する甕の口縁部である。口縁部直下に網文による文様帶が巡り、その下位に網文が充填される沈線区画文が施される。2・3は尖る口縁部直下にヘラ状工具による刻みが施される突帯が巡る壺である。特に2・3の突帯に見られる凸部分は鋭く突出するものとなっており特徴的である。4~6は口縁端部上にヘラ状工具による刻みが施され、その下に横方向の条痕文が施される甕である。7・8は4~6に類似するが、口縁端部上に刻みがなく、口縁端部直下に一条の沈線が巡る甕である。特に7は口縁端部直下に巡る沈線が不連続となる(一旦途切れる)ものであ

るが、意図的なものか否かは不明である。10は縄文が充填される沈線区画文が施される。9・11-33は一定方向の条痕文が施されるもの、34-47は羽状の条痕文が施されるものである。48・49は壺あるいは甕の底部であり、それぞれ木葉痕・網代痕が残る。50-53はいずれも黒曜石製の石器であり、50・51・53は有茎である。54は脆い粘板岩製の打製石斧である。そのほか図示はしていないが、黒曜石の剥片が50点（非常に細かい2mm大以下のチップが大半である）や拳大から25cm大の砂岩6点が出土している。

- (補足) 1) なお、SP034とSP044の2基の土坑は他の土坑群から離れて位置している。他の土坑群とは小谷を隔てて対峙するような位置関係にある。  
2) 遺物は底面から浮いた状態で出土しているものが大半であり、土坑覆土の中位以上（7層以上）からの出土密度が高い。  
3) 合計4kgにおよぶ礫（砂岩）が出土しているが、これまでの肉眼観察では礫が火熱を受けた痕跡等は確認されていないが、科学的分析を行ったわけではなく結論付けはできていない。  
4) 覆土のリン分析の結果、特に上位の1・3層および最下位の8層にリン成分が多く含まれていることが判明している。

SP035 (遺構: Fig.8・Pl.2)

- (位置) 調査区の北側、SH002エリアの東側、大グリッドG-4の小グリッドe-6区に位置する。  
(重複) 南側のSP033と近接するが、重複関係はない。  
(形状) ほぼ正円形の平面形を呈し、断面形状は台形である。  
(規模) 長軸（東西）1.74m×短軸（南北）1.68m、確認面から床面までの深さ0.35m（最深部）を測る。  
(底面) 平坦な底面であり、小穴等は全くない。  
(遺物) 出土点数は5点であり、礫が3点、土器片が2点である。図示したものはないが、土器は2点とも縄文が施されるものの小破片である。  
(補足) 1) 覆土のリン分析は行っていない。

SP079 (遺構: Fig.6・Pl.1 遺物: Fig.12・Pl.7・Tab.4)

- (位置) 調査区の北側、SH002エリアの東側、大グリッドG-4の小グリッドd-8区に位置する。  
(重複) 東側にあるSP078と近接するが、重複関係はない。  
(形状) ほぼ正円形の平面形を呈し、断面形状は台形でフ拉斯コ状にオーバーハングする。  
(規模) 長軸（南北）1.58m×短軸（東西）1.54m、確認面から床面までの深さ0.40m（最深部）を測る。  
(底面) 底面には大小様々な小穴が多数あり、特に集中する箇所はなくまんべんなく分布する。また、壁面も凸凹しており、滑らかではない。  
(遺物) 出土点数は89点であり、土器80点・黒曜石片（非常に細かい2mm大以下のチップが大半である）9点となる。これらのうち、図示したのは19点である。1・2・5は尖る口縁端部直下に条痕文が施される甕であり、1は縦位の羽状の条痕文、2は横方向の条痕文、5は斜め方向の条痕文がそれぞれ施される。3は尖る口縁部直下にヘラ状工具による刻みが施される突帯が巡る壺である。また、6は複数方向、8-17は一定方向、18・19は羽状の条痕文が施されるものである。7は沈線による区画文（区画内の充填縄文や割突文はない）が施される壺である。  
(補足) 1) SP078とSP079の2基の土坑は他の土坑群から南側にやや離れて位置している。  
2) 遺物は底面から浮いた状態で出土しているものが多いが、他の土坑に比較すると底面に近い位置から出土したものが多い。  
3) 覆土のリン分析の結果、基本土層より高い含量は示すものの、リン成分の高い埋納物の存在は指摘されていない。

SP080 (遺構: Fig.7・Pl.2 遺物: Fig.13・Pl.7・Tab.4)

- (位置) 調査区の北側、SH002エリアの東側端、大グリッドG-5の小グリッドh-0およびh-1区に位置する。  
(重複) 南側にSP082が存在するが、重複関係はない。

- (形状) 不整円形の平面形を呈すが、本来は正円形に近い平面形状であったことが推測される。断面形状は台形で壁はやや傾斜気味に立ち上がる。
- (規模) 長軸（南北）1.35m×短軸（東西）1.20m、確認面から床面までの深さ0.90m（最深部）を測る。
- (底面) 底面には小穴が複数あるが、密度はまばらである。また、壁面にも小穴がまばらにある。
- (遺物) 出土点数は130点あり、土器118点・蝶（砂岩）3点・黒曜石片（非常に細かい2mm以下の大半である）9点となる。これらのうち、図示したのは26点である。1・2は尖る口縁端部直下に一条の沈線が巡り、その直下に横方向の条痕文が施される型である。3～5は口縁部直下にヘラ状工具による刻みが施される突帯が巡る型である。6は沈線による区画文（区画内の充填繩文や刺突文はない）が施されるものだが、器形は不明である。7～11は複数方向、12から18は一定方向、19～25は羽状の条痕文が施されるものである。
- (補足) 1) SP080とSP082とSP083の3基の土坑は他の土坑群から南側にやや離れて位置しており、一群として捉えることも可能である。  
 2) 遺物は底面から浮いた状態で出土しているものが多い。  
 3) 覆土のリン分析の結果、4層ではやや高い含量は示すものの、リン成分の高い埋納物の存在は指摘されてはいない。

#### *SP082 (遺構: Fig. 7 · Pl. 3 遺物: Fig. 12 · Pl. 2 · Tab. 4)*

- (位置) 調査区の北側、SH002エリアの東側、大グリッドG-5の小グリッドh-2区に位置する。
- (重複) 北側にSP080、南側にSP083があるが、重複関係はない。
- (形状) 不整円形の平面形を呈すが、本来は正円形に近い平面形状であったことが推測される。断面形状は台形で壁は直立気味に立ち上がる。
- (規模) 長軸（南北）1.26m×短軸（東西）1.18m、確認面から床面までの深さ0.36m（最深部）を測る。
- (底面) 底面には小穴が複数あり、土坑底面の北東側から南西に向けて2列に並ぶような配置が見られる。
- (遺物) 出土点数は25点であり、いずれも土器である。これらのうち、図示したのは10点である。1～6は一定方向の条痕文、7～9は羽状の条痕文が施されるものである。また、10は棒状工具による刺突文が列状に施されるものであり、横方向の条痕文も見られるものであるが、器形は不明である。
- (補足) 1) SP080とSP082とSP083の3基の土坑は他の土坑群から南側にやや離れて位置しており、一群として捉えることも可能である。  
 2) 遺物は底面から浮いた状態で出土しているものが多いが、底面に近い部分（覆土5・6・7層）付近に集中する傾向がある。  
 3) 覆土のリン分析の結果、リン成分の高い埋納物の存在は指摘されてはいない。

#### *SP002 (遺構: Fig. 11 · Pl. 2 遺物: Fig. 12 · Pl. 7 · Tab. 4)*

- (位置) 調査区の北側、SH002エリアの北側、大グリッドG-4の小グリッドd-5区に位置する。
- (重複) 北東側にあるSP036と近接するが重複関係はない。
- (形状) ほぼ正円形の平面形を呈し、断面形状は台形でフラスコ状にオーバーハングする。
- (規模) 長軸（南北）1.78m×短軸（東西）1.75m、確認面から床面までの深さ0.48m（最深部）を測る。
- (底面) 平坦な底面であり、小穴等は全くない。
- (遺物) 出土点数は4点のみであり、土器2点・蝶（砂岩）2点となる。うち、図示したのは2点である。1・2とも一定方向の条痕文が施されるものである。
- (補足) 1) 遺物は底面から浮いた状態で出土したものばかりであり、蝶も土坑の平面確認時に出土したものである。  
 2) 覆土のリン分析は行っていない。

#### *SP033 (遺構: Fig. 8 · Pl. 2 遺物: Fig. 12 · Pl. 7 · Tab. 4)*

- (位置) 調査区の北側、SH002エリアの東側、大グリッドG-4の小グリッドはe-6およびe-7区に位置する。

- (重複) 北側にSP035、南側にSP032があるが、重複関係はない。
- (形状) ほぼ正円形の平面形を呈し、断面形状は箱形で部分的にラスコ状にオーバーハングする箇所がある。
- (規模) 長軸（東西）1.48m×短軸（南北）1.46m、確認面から床面までの深さ0.36m（最深部）を測る。
- (底面) 平坦な底面であり、小穴等は全くない。
- (遺物) 出土点数は3点であり、土器2点・躰1点となる。図示した1は一定方向に条痕文が施されるものである。
- (補足) 1) 覆土のリン分析は行っていない。

*SP035 (遺構: Fig. 8 · Pl. 2)*

- (位置) 調査区の北側、SH002エリアの東側、大グリッドG-4の小グリッドe-6区に位置する。
- (重複) 南側にSP033やSP032が存在するが、重複関係はない。
- (形状) ほぼ正円形の平面形を呈し、壁はほぼ垂直に立ち上がる。
- (規模) 長軸（南北）2.310m×短軸（東西）2.300m、確認面から床面までの深さ0.32m（最深部）を測る。
- (底面) 平坦な底面であり、小穴等は全くない。
- (遺物) 出土点数は7点であり、土器3点・躰4点となる。図示したものはないが、土器は一定方向の条痕文を施すものの小片のみである。
- (補足) 1) 出土した躰（砂岩）は合計0.5kg未満であるが、これまでの肉眼観察では躰が火熱を受けた痕跡等は確認されていないが、科学的分析を行ったわけではなく結論付けはできていない。  
2) 覆土のリン分析は行っていない。

*SP036 (遺構: Fig. 8 · Pl. 2 遺物: Fig.12 · Pl. 7 · Tab. 4)*

- (位置) 調査区の北側、SH002エリアの東側、大グリッドG-4の小グリッドd-5区に位置する。
- (重複) 南西側にSP002が存在するが、重複関係はない。
- (形状) ほぼ正円形の平面形を呈し、断面形状は台形でラスコ状にオーバーハングする。
- (規模) 長軸（南北）1.38m×短軸（東西）1.34m、確認面から床面までの深さ0.18m（最深部）を測る。
- (底面) 底面は平坦であるが、小穴がまばらに存在する。
- (遺物) 出土点数は1点である。図示したの1は黒曜石製の石器である。
- (補足) 1) 覆土のリン分析は行っていない。

*SP038 (遺構: Fig. 9 · Pl. 2)*

- (位置) 調査区の北側、SH002エリアの東側、大グリッドG-4の小グリッドd-7区に位置する。
- (重複) 東側にあるSD001と重複しており、新旧関係はSD001の方が新しいことが断面観察から判明している。
- (形状) 不整円形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈する。
- (規模) 長軸（東西）0.9m×短軸（南北）1.10m、確認面から床面までの深さ0.18m（最深部）を測る。
- (底面) 平坦な底面であり、小穴等は全くない。
- (遺物) 出土点数は7点である。図示したものはないが、土器には一定方向の条痕文を施すものの小片が含まれる。
- (補足) 1) 覆土のリン分析は行っていない。

*SP040 (遺構: Fig. 9 · Pl. 2)*

- (位置) 調査区の北側、SH002エリアの東側、大グリッドG-4の小グリッドd-7区に位置する。
- (重複) 西側にSD000およびSP038が存在するが、重複関係はない。
- (形状) ほぼ正円形の平面形を呈し、断面形状は浅皿形を呈する。
- (規模) 長軸（東西）0.98m×短軸（南北）0.9m、確認面から床面までの深さ0.17m（最深部）を測る。
- (底面) 平坦な底面であり、小穴等は全くない。
- (遺物) 出土点数は3点である。図示したものはないが、土器には一定方向の条痕文を施すものの小片が含まれる。
- (補足) 1) 覆土のリン分析は行っていない。

**SP044 (遺構 : Fig. 9 · Pl. 2 遺物 : Fig.12 · Pl. 7 · Tab. 4)**

- (位置) 調査区の北側、SH002エリアの西側、大グリッドF-4の小グリッドj-8およびi-8区に位置する。
- (重複) SP044と隣接するが、重複関係はない。
- (形状) 不整円形の平面形を呈し、断面形状は皿形である。西側の壁はなだらかに立ち上がるが、その他の壁は垂直気味に立ち上がる。
- (規模) 長軸（南北）1.60m×短軸（東西）1.40m、確認面から床面までの深さ0.40m（最深部）を測る。
- (底面) 底面には小穴が少數あるが極めてまばらである。
- (遺物) 出土点数は5点であり、土器小片のみである。図示した1は一定方向の条痕文が施されるものである。
- (補足) 1) なお、SP034とSP044の2基の土坑は他の土坑群から離れて位置している。他の土坑群とは小谷を隔てて対峙するような位置関係にある。  
2) SP034が比較的豊富に遺物が含まれるのでに対して、本土坑はほとんどといって良いほど遺物が出土しなかった。特にSP034で見られた黒曜石のチップなども見られない。  
4) 覆土のリン分析の結果、リン成分の高い埋納物の存在は指摘されていない。

**SP071 (遺構 : Fig. 9 · Pl. 2)**

- (位置) 調査区の北側、SH002エリアの東側、大グリッドG-4の小グリッドe-8およびf-8区に位置する。
- (重複) 北西側に存在するSP073と重複しており、新旧関係はSP071の方が新しいことが断面観察から判明している。
- (形状) ほぼ正円形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈する。壁はやや傾斜気味に立ち上がる。
- (規模) 長軸（東西）1.49m×短軸（南北）1.51m、確認面から床面までの深さ0.16m（最深部）を測る。
- (底面) 平坦な底面であり、小穴等は全くない。
- (遺物) 出土遺物はない。
- (補足) 1) 覆土のリン分析は行っていない。

**SP072 (遺構 : Fig.10 · Pl. 2)**

- (位置) 調査区の北側、SH002エリアの東側、大グリッドG-4の小グリッドf-7区に位置する。
- (重複) 東側に存在するSP031と重複しており、新旧関係はSP031の方が新しいことが断面観察から判明している。
- (形状) 長楕円形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈する。壁はやや傾斜気味に立ち上がる。本来は隅丸長方形の平面形を呈していた可能性もある。
- (規模) 推定長軸（東西）2.5m×短軸（南北）1.25m、確認面から床面までの深さ0.14m（最深部）を測る。
- (底面) 平坦な底面であるが、複数箇所に円形の小穴や不整形の穴が存在する。
- (遺物) 出土遺物はない。
- (補足) 1) 覆土のリン分析は行っていない。

**SP073 (遺構 : Fig. 9 · Pl. 1)**

- (位置) 調査区の北側、SH002エリアの東側、大グリッドG-4の小グリッドe-7およびe-8区に位置する。
- (重複) 南東側に存在するSP071と重複しており、新旧関係はSP071の方が新しいことが断面観察から判明している。
- (形状) 長楕円形の平面形を呈する。南北方向の断面形状は箱形を呈するが、東西方向は皿形となる。また、南側および北側の壁は垂直気味に立ち上がるが、東側および西側はなだらかに立ち上がる。
- (規模) 長軸（東西）2.35m×短軸（南北）1.05m、確認面から床面までの深さ0.28m（最深部）を測る。
- (底面) 底面はおおむね平坦であるが、特に東西の両壁の立ち上がり部分は凸凹が著しい。
- (遺物) 出土遺物はない。
- (補足) 1) 覆土のリン分析は行っていない。

**SP073 (遺構: Fig.10・Pl. 4)**

- (位置) 調査区の北側、SH002エリアの東側、大グリッドG-4の小グリッドe-9区に位置する。  
(重複) 西側にSP079が存在するが、重複関係はない。  
(形状) 不整円形の平面形を呈する。断面形状は箱形であり、壁は垂直気味に立ち上がる。  
(規模) 長軸（東西）1.20m×短軸（南北）0.98m、確認面から床面までの深さ0.45m（最深部）を測る。  
(底面) 底面は平坦であるが、小穴が3箇所ほど存在する。  
(遺物) 出土遺物はない。  
(補足) 1) 積土のリン分析は行っていない。

**SP083 (遺構: Fig.10・Pl. 4)**

- (位置) 調査区の北側、SH002エリアの東側端、大グリッドG-5の小グリッドi-2区に位置する。  
(重複) 南西側に存在するSD002と重複しており、新旧関係はSD002の方が新しいことが断面観察から判明している。  
(形状) 不整円形の平面形を呈する。断面形状は皿形であるが、SD002に切られており明確ではない。  
(規模) 長軸（東西）1.00m×短軸（南北）0.90m、確認面から床面までの深さ0.15m（最深部）を測る。  
(底面) 底面には小穴が複数あり、平坦ではない。  
(遺物) 出土遺物はない。  
(補足) 1) 積土のリン分析は行っていない。

**(2) 溝**

**SD001 (遺構: Fig.11・Pl. 4)**

- (位置) 調査区の北側、SH002エリアの東側端、大グリッドG-4の小グリッドd-7区に位置する。  
(重複) 西側に存在するSP038と重複しており、新旧関係はSD001の方が新しいことが断面観察から判明している。  
(形状) 不整形であるが長楕円形に近い平面形を呈する。断面形状は皿形である。  
(規模) 長軸（5.20m×短軸0.80m～1.60m、確認面から床面までの深さ0.15m（最深部）を測る。  
(遺物) 出土遺物は極僅かである。主体は条痕文が施される土器片であるが、図示したものはない。  
(補足) 1) 遺構名称は「溝」としたが、果たして文字どおり機能したか否かは不明である。

**SD002 (遺構: Fig.11・Pl. 4)**

- (位置) 調査区の北側、SH002エリアの東側端、大グリッドG-5の小グリッドf-0・f-1・g-1・h-1・h-2・i-2区に位置する。  
(重複) 北側に存在するSP083と重複しており、新旧関係はSD002の方が新しいことが断面観察から判明している。  
(形状) 断面形状は皿形である。  
(規模) 長軸24.00m×短軸0.98m～2.0m、確認面から床面までの深さ0.25m（最深部）を測る。  
(遺物) 出土遺物は極僅かである。主体は条痕文が施される土器片であるが、図示したものはない。  
(補足) 1) 标高375mの等高線に沿うように横走する溝である。流路というより区画の機能が推定される。

**(3) 墓石**

**SX001 (遺構: Fig.11・Pl. 1)**

- (位置) 調査区の中央部、SH003エリアの北側、大グリッドH-5の小グリッドe-5区に位置する。  
(重複) 周囲にはその他の遺構はなく、最も近いSX002でも西へ15m以上離れている。  
(形状) 掘方は楕円形の平面形を呈し、断面形状は皿形を呈する。掘方の内部に10cm～20cm大の扁平な礫が敷き詰められ、その表面は火熱を受け赤色化しており、熱によりひび割れた礫も見られる。この石敷き面を覆う土は黒褐色土であり、炭化物・焼土を多量に含み積土中には拳大の礫（ほとんどが火熱を受けたもの）が集中する。  
(規模) 掘方の規模は長軸1.05m×短軸0.80m、確認面から床面までの深さ0.3m（最深部）を測る。

- (遺物) 遺構内からの出土遺物はない。ただし、遺構周辺からは条痕文が施される土器片が散点採集されている。  
ただし、遺構との関係は不明であり、時期決定の根拠とはならない。
- (補足) 1) 敷き詰められた疊の表面の被熱状態や覆土の状況から見て、屋外の敷石炉と考えられる。

**SX002 (遺構 : Fig.11 · Pl.4)**

- (位置) 調査区の中央部、SH003エリアの北側、大グリッドH-5の小グリッドb-5区内に位置する。
- (重複) 周囲にはその他の遺構ではなく、最も近いSX001でも東へ15m以上離れている。
- (形状) 振方は梢円形の平面形を呈し、断面形状は皿形を呈する。振方の内部にはSX001のような顕著な石敷きは見られない。また、被熱を受けた状況もないが、覆土には炭化物・焼土を少量含む。
- (規模) 振方の規模は長軸0.70m×短軸0.60m、確認面から床面までの深さ0.28m（最深部）を測る。
- (遺物) 遺構内からの出土遺物はない。
- (補足) 1) SX001に類似しており、屋外の敷石炉と考えられるが、石敷きがない点など疑問点も残る。

## 第2節 遺構外出土の遺物

菖蒲池遺跡の発掘調査において発見された遺構外出土遺物について述べる。出土遺物については下記の分類に基づいて報告する。分類方法は大分類（ローマ数字による群）が時代や時期、中分類（アラビア数字による類）が部位や器種、小分類（アルファベットによる種）が文様や器形で行なった。所産時期は旧石器時代から近現代までに及ぶがその中心となるのは弥生時代中期および古墳時代前期である。遺構の有無に関わらず、この2つの時期が菖蒲池遺跡を代表する時期とみて差し支えない。出土位置については、Fig.14にみるとおりであるが、おおむね大グリッドのH-4～H-5（SH002エリア）に弥生時代（第Ⅱ群）、大グリッドのI-5～I-6（SH003エリア）に古墳時代前期（第Ⅰ群）の集中域が見受けられた。いずれの時期についてもカルデラ状地形の下位に溜まるかのように集中するが、特に古墳時代前期の土器集中は局地的かつ径5m程度のブロックに分けられ、「土器集中区」のような遺構名を付すことも可能であるが、ここでは遺構外出土遺物として扱った。なお、古墳時代前期の土器資料については、周辺に住居跡などが全く見られることや器種が限定されることなどから、単なる遺物集中とは考えられず、何らかの祭祀（例えば湧水に関わる祭祀など）の存在も指摘できるものである。しかしながら、祭祀遺構と断定できる遺物もなく、ここではその可能性を指摘するにとどめる以外にないことを付記しておく。

### I群 (Fig.15 · Pl.7)

縄文時代の所産と考えられる土器を一括した。数量的には極めて少ない。1は縄文時代早期の山形押型文、2・3・5～7・14・15は半裁竹管による連続刺突文が施されるもの、4・11は厚手の口縁部分、9は沈線区画内に刺突文が施されるもの、10は縄文地文に貼付浮線文が付くものである。

### II群 (Fig.15-22 · Pl.7～9)

弥生時代の所産と考えられる土器を一括した。部位・文様でさらに細分類できる。

#### 1類……口縁部

口縁端部の形状（丸みを帯びるか、尖るか）や口縁端部の直下外面の状況を総合的に勘案し、A種～E種の4種に分類した。

A種（15～21）……口縁端部の直下外面に沈線が横走するもの

棒状工具の先端を用いたと考えられる沈潜が横方向に施されるものを一括し、条数でさらに細かく分類できる。

a……条が複数のもの（15～18）

2条～4条以上の沈線が見られるものは、口縁端部が丸みを帯びる傾向が認められる。

b……条が単数のもの（19～21）

1条のみの沈線の場合は、口縁端部が尖る傾向が認められる。

B種（22～52）……口端部直下に刻みを施す突帯が巡るもの

この種については、基本的に薄手の作りであり、口縁端部が尖る傾向があるが、一部（50～52）には厚手の作りで口縁端部が肥厚するものもある。突帯に施される刻みはヘラ状工具の先端部を押し当てた結果による「刻み」や棒状工具の側面を押し当てた結果による「刻み」などがあり、一様ではない。これらが時期差や系統差

を示している可能性もあるが、ここで細分類は行わない。また、口縁端部の直下内面に横方向の条痕文が施されるもの（25、48、49）もある。

C種（53～59）……口縁端部上に刻みあるいは刺突文が施されるもの

口縁端部の上面にヘラ状工具の先端部を押し当てた結果による「刻み」や棒状工具の側面を押し当てた結果による「刻み」が施されるものを一括する。

D種（60～95）……尖る口縁端部の直下から条痕文が施されるもの

口縁端部直下の外面に横方向の撫での結果によると考えられる段部を持ち、その直下に条痕文が施されるものを一括する（ただし、この「段部」については棒状工具の先端による沈線と考えるべきかもしれない。その場合には前述のA種bに括り直すべきとの考え方も生じることとなるが、ここでは条痕文が伴うことに重点を置いて別分類したものである。）。なお、施される条痕文は横方向（71、87、91、92など）、縦方向（61）、斜方向（60、85、93など）、羽状（69）がそれぞれ認められるが、その点での細分類はここでは行わない。

E種（96～101）……厚手の丸口縁端部の直下に段部・突審が巡るもの

全体的な形状は不明であるが、厚手で丸みを帯びた口縁端部のものを一括する。屈曲する段部を持つもの（96～99）と突審の痕跡を持つもの（100、101）がある。なお、後者については、前述のB種のうち厚手であるものの（51、52）と同種である可能性もあるが、突審の形状が不明のため別分類としたものである。

2類……体部（頭部～体部下位まで含む。また、分類上やむを得ず口縁部も一部含めた）

菖蒲池遺跡出土の弥生土器資料（Ⅱ群）のうち最も多くの点数が見られるのが、この2類である。いずれも器形までの推測は立たないものばかりであるが、ここでは外面に残された調整技法および装飾技法で分類した。なお、その大半は条痕文であり、A種～E種の5種に施文方向によって分類した。

A種（102～496）……單一方向の条痕文が施されるもの

施文方向は横・縦・斜とまちまちではあるが、單一の方向性があるという共通点で一括した。

なお、破片が小さい程このA種に分類せざるを得なくなることは当然であり、本来は土器全体のどの部位の破片かという視点での分類を行なうべきところである。ただし、今回は部位判断まで行なうことはできなかったため、あえて方向性のみでの分類を示すことにとどめるものである。

また、一様に見える条痕文ではあるが、細かい視点で観察すると、施文技法（工具や施文時期）差を見い出すことも可能と見られた。ここではそれぞれの分類提示は避けるが、概ね次のa～fへの分類が可能であろう。

a……条間幅が均一で、断面の凹凸部分の角が角張るもの

b……条間幅が均一で、断面の凸部分が尖り、凹部分が半円形となるもの

条溝幅が広いもの（b-①）と狭いものと（b-②）がある

c……条間幅が均一で、断面の凸部分端部が窪み、凹部分が半円形となるもの

d……条間幅が不均一で、断面凸部分端部が尖り、凹部分が三角形となるもの

e……条間幅が不均一で、断面凸部分端部が尖り、凹部分が半円形となるもの

f……b・c・dの各要素が混在するもの

B種（497～551）……縦方向と横あるいは斜方向の条痕文が接して共存するもの

基本的には横方向十縦方向あるいは横方向十斜方向の組み合わせが主体となる。おそらく施文方向の変換点付近の破片であり、想定される部位は壺形土器の頭部、肩部など胴部の上半であるが、断定はできない。

C種（552～567）……複数方向の条痕文が施され、各々が交差するもの

B種との区別が難しいが、施文方向の明らかな変換点というよりは、単に切り合う程度のものを一括した。

D種（568～572）……曲線あるいは円形の条痕文が施されるもの

曲線的な条痕文が施されるものを一括した。568のように円形となるものもあれば、569、570、572のように円弧の一部と目されるものもある。なお、571については円弧というよりは「蛇行する条痕文」と呼べるものである。

E種（573～709）……羽状の条痕文が施されるもの

前述のB種およびC種に類似するが、羽状となるもののみを抜粋し一分類としたものである。縦位のものと横位のものが認められるが、全体的には縦の方が主体的である。

a……縦位の羽状

b ……横位の羽状

F種 (710~723) ……沈線文が施されるもの

地文がなく（無文であり）、沈線文が施されるものを一括する。沈線は直線的なものと曲線的なものが認められる。

なお、このF種の資料はいずれも他の資料に比べて、胎土が緻密であり、堅く締まった焼成が観察されるものであり、異質感があるものである。

G種 (724~761) ……繩文が施されるもの（基本的には沈線区画文が伴うもの）

繩文が施されるものを一括した。沈線文を伴うものが大半であり、直線的な方形区画文（734、735、736など）や円形文（733、753など）がある。また、758~761は口縁部であるが、分類上やむを得ずこの種に含めた。これらは断面が方形となり肥厚する口縁端部であり、上端部は平坦面となるものである。特に760、761は体部へ向けて垂下する隆線文が伴う特徴があるものである。

H種 (762~767) ……刺突文が施されるもの

棒状工具の先端による連続刺突文が施されるものを一括した。762は沈線区画文内に刺突文が充填されたものであり、766は横走する沈線文を伴うものである。刺突文は一様ではなく、器面に工具を突き当ただけのもの（762、763、767）と工具を押し引いたもの（764~766）に分けられる。

3類……底部

底部の破片資料を一括する。大半の資料が底部付近の体部外面に条痕文が施されており、胎土や焼成状況を併せて見てもII群に属することが間違いないと判断されたものであるが、網代痕が残るA種と網代痕が残らず木葉痕が残るB種の二種が認められた。

A種 (768~804) ……網代痕の残るもの

B種 (805~820) ……網代痕が残らず、木葉痕が残るもののが大半である。

III群 (Fig.22~23・Pl.9~10)

古墳時代前期の土器を一括する。器形・部位により細分類した。

いずれも湧水付近から出土したものであり、残存状況は極めて悪く、器面は脆く剥げ落ちているものが大半である。

1類……口縁部（甕・壺）

A種 (821~833) ……單口縁かつ丸口縁のものであり、甕・壺あるいは台付甕の破片である。

B種 (834~838) ……口縁端部の上面に平坦面をもつもの

C種 (839~857) ……S字状口縁台付甕の口縁部

2類……底部（甕・壺）

底部破片のみを一括する（858~864）。

3類……台部および脚部（台付甕・高坏ほか）

A種 (865~883) ……台付甕の台部

B種 (884~892) ……高坏あるいは器台の脚部

IV群 (Fig.24・Pl.10)

古墳時代後期の土器であり、すべて須恵器である。出土位置は調査区の全域に渡るが、特にSH001~002区に多く見られた。このことは今回の調査区域の北側の米倉山山頂部に点在する古墳群との関係が推測される。つまり、後期古墳の副葬などで用いられた須恵器の一端が調査区内におよぼされたものと解釈できるのである。

器形で細分類できる。

1類・・須恵器（甕類）(893~951)

2類・・須恵器（その他）(952~954)

V群 (Fig.24・Pl.10)

I群からIV群以外の土器であり、中世以降の土器・陶磁器および時期不明の土製品を一括する。

1類……土器・土製品類 (955~957)

955は中近世の土鍋系統の土器、956および957は中世のかわらけである。958は時期不明ではあるが土器片を加工した土製円盤、959は土偶の脚部と思われる破片である。また、960は中央部に小穴の穿たれる土製円盤であり、表面には沈線による放射線状の装飾が施される。用途や時期は不明であるが、形状は紡錘車に類似する。

2類・・陶磁器類（図示なし、写真のみ）

石器 (Fig.25・Pl.10)

菖蒲池遺跡から出土した石器のうち、遺構に伴わないものを一括する。

石器の出土状況は調査区全体ではいくつかの集中箇所が読み取れるが、残存状況が良い製品については、調査区全体から散在して出土する傾向にあるといえる。

器種は、調査区内で検出された遺構や他の遺物と同様に、弥生時代所産の石器（28・29）が見れるほか、旧石器時代のナイフ形石器が出土し、器種としては石鎌がもっとも多い。石鎌の所産時期については、共伴する遺物や個別の形態などの様相から、弥生時代のものが多いと推測できる。

1は縦長の石刀を素材とした二側縁加工のナイフ形石器である。本調査地点を周辺の曾根丘陵では、旧石器時代の石器が単独で出土することがままあり、本資料も同様な事例の一つと考えられる。2から23は石鎌である。21・22は凹基有茎鎌で、あとは凹・平基の無茎鎌である。17は特殊な形態をもち、同様なものが繩文に見ることができる。24・25は二次加工のある剥片である。28・29は横刃形の石器で弥生時代に特徴的な見られる資料である。

なお、石材については、黒曜石が半数以上を占めるが、その他に粘板岩や砂岩などの堆積岩も使用されている。

遺物	Fig	報告No	注記No	遺物	Fig	報告No	注記No	遺物	Fig	報告No	注記No
SP031	12	1	1071	SP079	12	1	11102	SP034	13	41	1562
SP031	12	2	1073	SP079	12	2	11097	SP034	13	42	1563
SP031	12	3	1081	SP079	12	3	一柄	SP034	13	43	1053
SP031	12	4	1086	SP079	12	4	11088	SP034	13	44	1313
SP031	12	5	1088	SP079	12	5	1105	SP034	13	45	1584
SP031	12	6	1089	SP079	12	6	9800	SP034	13	46	1052
SP031	12	7	1078	SP079	12	7	11081	SP034	13	47	1222
SP031	12	8	1107	SP079	12	8	10080	SP034	13	48	1065
SP031	12	9	1111	SP079	12	9	9790	SP034	13	49	1910
SP031	12	10	1075	SP079	12	10	9093	SP034	13	50	1046
SP031	12	11	1072	SP079	12	11	9812	SP034	13	51	1295
SP031	12	12	1085	SP079	12	12	9771	SP034	13	52	1298
SP031	12	13	1109	SP079	12	13	9814	SP034	13	53	1323
SP031	12	14	1105	SP079	12	14	11093	SP034	13	54	1060
SP031	12	15	1079	SP079	12	15	9772	SP080	13	1	11786
SP031	12	16	1087	SP079	12	16	9999	SP080	13	2	14285
SP032	12	1	1106	SP079	12	17	9809	SP080	13	3	一柄
SP032	12	2	1201	SP079	12	18	9795	SP080	13	4	一柄
SP032	12	3	1055	SP079	12	19	9794	SP080	13	5	11772
SP032	12	4	1074	SP034	13	1	988	SP080	13	6	11800
SP032	12	5	1150	SP034	13	2	1572	SP080	13	7	13997
SP032	12	6	1168	SP034	13	3	1132	SP080	13	8	11757
SP032	12	7	1156	SP034	13	4	1573	SP080	13	9	14015
SP032	12	8	1162	SP034	13	5	1577	SP080	13	10	11780
SP032	12	9	1194	SP034	13	6	1127	SP080	13	11	14018
SP032	12	10	1152	SP034	13	7	1213	SP080	13	12	13993
SP032	12	11	1228	SP034	13	8	7578	SP080	13	13	12776
SP032	12	12	1169	SP034	13	9	1307	SP080	13	14	14000
SP032	12	13	1172	SP034	13	10	987	SP080	13	15	11789
SP032	12	14	1173	SP034	13	11	1312	SP080	13	16	13994
SP032	12	15	1174	SP034	13	12	1128	SP080	13	17	11801
SP032	12	16	1148	SP034	13	13	1046	SP080	13	18	11753
SP032	12	17	1227	SP034	13	14	1028	SP080	13	19	11792
SP032	12	18	1175	SP034	13	15	1366	SP080	13	20	11799
SP002	12	1	1358	SP034	13	16	1070	SP080	13	21	12779
SP002	12	2	1379	SP034	13	17	1051	SP080	13	22	11756
SP033	12	3	1351	SP034	13	18	1137	SP080	13	23	12779
SP044	12	1	1441	SP034	13	19	1044	SP080	13	24	11799
SP084	12	1	14512	SP034	13	20	1375	SP080	13	25	11787
SP084	12	2	14416	SP034	13	21	1554	SP080	13	26	11780
SP084	12	3	14307	SP034	13	22	1646				
SP036	12	1	1358	SP034	13	23	1370				
SP082	12	1	13806	SP034	13	24	1331				
SP082	12	2	13838	SP034	13	25	1047				
SP082	12	3	13847	SP034	13	26	1333				
SP082	12	4	13839	SP034	13	27	1136				
SP082	12	5	87	SP034	13	28	1065				
SP082	12	6	13859	SP034	13	29	1043				
SP082	12	7	一柄	SP034	13	30	1388				
SP082	12	8	13650	SP034	13	31	1568				
SP082	12	9	13840	SP034	13	32	1580				
SP082	12	10	13851	SP034	13	33	1648				
				SP034	13	34	1042				
				SP034	13	35	1080				
				SP034	13	36	1325				
				SP034	13	37	1144				
				SP034	13	38	1374				
				SP034	13	39	1123				
				SP034	13	40	1560				

Tab. 1 遺物ナンバー対照表 (1)

Fig	報告No	生記No	Fig	報告No	生記No	Fig	報告No	生記No	Fig	報告No	生記No	Fig	報告No	生記No
15	1	7319	15	71	6596	16	141	2404	16	211	7164	17	281	8775
15	2	813	15	72	8813	16	142	2497	16	212	7188	17	282	8793
15	3	858	15	73	9563	16	143	2603	16	213	9219	17	283	8789
15	4	5450	15	74	9246	16	144	2604	16	214	7280	17	284	8835
15	5	812	15	75	9648	16	145	2655	16	215	7294	17	285	8979
15	6	8465	15	76	9834	16	146	2662	16	216	7300	17	286	9019
15	7	8615	15	77	7884	16	147	2667	16	217	7311	17	287	9055
15	8	8825	15	78	7997	16	148	2874	16	218	7354	17	288	9099
15	9	9889	15	79	10038	16	149	2890	16	219	7361	17	289	9105
15	10	9681	15	80	10298	16	150	2947	16	220	7366	17	290	9110
15	11	12091	15	81	10309	16	151	3204	16	221	7397	17	291	9122
15	12	13261	15	82	10826	16	152	3996	16	222	7480	17	292	9151
15	13	13264	15	83	10411	16	153	4347	16	223	7530	17	293	9165
15	14	13758	15	84	10897	16	154	4393	16	224	7541	17	294	9176
15	15	4756	15	85	11207	16	155	4692	16	225	7572	17	295	9198
15	16	4791	15	86	9995	16	156	4767	16	226	7655	17	296	9192
15	17	5788	15	87	10613	16	157	4827	17	227	7600	17	297	9245
15	18	5814	15	88	11242	16	158	4887	17	228	7601	17	298	9271
15	19	9387	15	89	11204	16	159	5005	17	229	7616	17	299	9283
15	20	11275	15	90	11289	16	160	5091	17	230	7632	17	300	9289
15	21	13697	15	91	12448	16	161	5110	17	231	7655	17	301	9368
15	22	24	15	92	12735	16	162	5534	17	232	7675	17	302	9371
15	23	545	15	93	12854	16	163	5600	17	233	7677	17	303	9385
15	24	879	15	94	12940	16	164	5111	17	234	7684	17	304	9372
15	25	4162	15	95	13090	16	165	5742	17	235	7686	17	305	9390
15	26	6415	15	96	3432	16	166	6042	17	236	7687	17	306	9392
15	27	6492	15	97	5939	16	167	6161	17	237	7692	17	307	9394
15	28	6537	15	98	9424	16	168	6259	17	238	7693	17	308	9438
15	29	6462	15	99	14157	16	169	6327	17	239	7722	17	309	9492
15	30	6648	15	100	7365	16	170	6328	17	240	7751	17	310	9375
15	31	6719	15	101	9926	16	171	6332	17	241	7799	17	311	9539
15	32	6817	15	102	61	16	172	6335	17	242	7818	17	312	9528
15	33	7464	15	103	65	16	173	6343	17	243	7837	17	313	9541
15	34	7501	15	104	70	16	174	6370	17	244	7860	17	314	9590
15	35	7531	15	105	129	16	175	6375	17	245	7872	17	315	9572
15	36	7741	15	106	131	16	176	6414	17	246	7877	17	316	9612
15	37	8097	15	107	149	16	177	6432	17	247	7939	17	317	9614
15	38	8034	15	108	162	16	178	6434	17	248	7915	17	318	9626
15	39	8301	15	109	170	16	179	6451	17	249	8008	17	319	9662
15	40	8568	16	110	182	16	180	6460	17	250	8061	17	320	9683
15	41	9943	16	111	258	16	181	6464	17	251	8079	17	321	9819
15	42	10199	16	112	317	16	182	6467	17	252	8123	17	322	9836
15	43	11396	16	113	360	16	183	6495	17	253	8140	17	323	9891
15	44	12554	16	114	423	16	184	6497	17	254	8144	17	324	9946
15	45	12946	16	115	405	16	185	6501	17	255	8146	17	325	9957
15	46	13121/1	16	116	451	16	186	6516	17	256	8153	17	326	9987
15	47	13334	16	117	567	16	187	6556	17	257	8180	17	327	10053
15	48	13387	16	118	525	16	188	6557	17	258	8186	17	328	10078
15	49	13391	16	119	555	16	189	6559	17	259	8242	17	329	10109
15	50	14063	16	120	718	16	190	6586	17	260	8253	17	330	10204
15	51	14225	16	121	774	16	191	6634	17	261	8258	17	331	10212
15	52	14296	16	122	817	16	192	6643	17	262	8276	17	332	10249
15	53	191	16	123	838	16	193	6682	17	263	8777	17	333	10234
15	54	666	16	124	923	16	194	6695	17	264	8284	17	334	10242
15	55	1452	16	125	1273	16	195	6696	17	265	8333	17	335	10301
15	56	9864	16	126	1454	16	196	6717	17	266	8370	17	336	10345
15	57	12391	16	127	1459	16	197	6751	17	267	8428	17	337	10359
15	58	12749	16	128	715	16	198	6792	17	268	8445	17	338	10421
15	59	10501	16	129	1762	16	199	6801	17	269	8449	17	339	10469
15	60	361	16	130	1812	16	200	6819	17	270	8540	17	340	10525
15	61	6524	16	131	1814	16	201	6830	17	271	8562	17	341	10539
15	62	6768	16	132	1824	16	202	6856	17	272	8581	17	342	10556
15	63	6869	16	133	1830	16	203	6882	17	273	8606	17	343	10565
15	64	一括	16	134	1944	16	204	6883	17	274	8631	17	344	10584
15	65	4251	16	135	1945	16	205	6885	17	275	8659	17	345	10603
15	66	13671	16	136	1947	16	206	6924	17	276	—	17	346	10618
15	67	7595	16	137	1954	16	207	7090	17	277	8680	17	347	10638
15	68	7690	16	138	2116	16	208	7107	17	278	8693	17	348	10657
15	69	7906	16	139	2305	16	209	7122	17	279	8697	17	349	10666
15	70	8126	16	140	2326	16	210	7149	17	280	8756	17	350	10711

Tab. 2 遺物ナンバー対照表 (2)

Fig	報告No	注記No												
17	351	10722	18	421	12878	19	491	14231	19	561	10962	20	631	9148
17	352	10704	18	422	12929	19	492	14326	19	562	11150	20	632	9161
17	353	10705	18	423	12937	19	493	14093	19	563	11469	20	633	9202
17	354	10752	18	424	12945	19	494	14332	19	564	9384	20	634	9212
17	355	10772	18	425	12979	19	495	14903	19	565	12477	20	635	9268
17	356	10780	18	426	12980	19	496	14954	19	566	13173	20	636	9286
17	357	10788	18	427	13005	19	497	1857	19	567	13879	20	637	9574
18	358	10824	18	428	13054	19	498	6602	19	568	7902	20	638	9680
18	359	10895	18	429	13065	19	499	6610	19	569	10054	20	639	9688
18	360	10914	18	430	13140	19	500	6775	19	570	8356	20	640	9928
18	361	10929	18	431	13156	19	501	6926	19	571	5790	20	641	10022
18	362	10946	18	432	13210	19	502	6989	19	572	5127	20	642	10061
18	363	10947	18	433	13239	19	503	7103	20	573	376	20	643	10067
18	364	10948	18	434	13253	19	504	7254	20	574	456	20	644	10117
18	365	10950	18	435	13265	19	505	7373	20	575	559	20	645	10129
18	366	10971	18	436	13279	19	506	7637	20	576	685	20	646	10225
18	367	11112	18	437	13283	19	507	7811	20	577	1284	20	647	10326
18	368	11161	18	438	13288	19	508	7815	20	578	6311	20	648	10410
18	369	11167	18	439	13299	19	509	7824	20	579	6362	20	649	10690
18	370	11239	18	440	13300	19	510	7926	20	580	6439	20	650	10792
18	371	11266	18	441	13306	19	511	7959	20	581	6571	20	651	10795
18	372	11271	18	442	13349	19	512	8258	20	582	6463	20	652	10913
18	373	11326	18	443	13379	19	513	8358	20	583	6600	20	653	11136
18	374	11374	18	444	13404	19	514	8421	20	584	6600	20	654	11145
18	375	11492	18	445	13381	19	515	8514	20	585	6607	20	655	11187
18	376	11418	18	446	13415	19	516	8741	20	586	5615	20	656	11217
18	377	11435	18	447	13421	19	517	9109	20	587	6641	20	657	11219
18	378	11498	18	448	13424	19	518	9522	20	588	6642	20	658	11237
18	379	11460	18	449	13441	19	519	9546	20	589	6645	20	659	11400
18	380	11473	18	450	13487	19	520	9743	20	590	6651	20	660	11571
18	381	11514	18	451	13509	19	521	9999	20	591	6706	20	661	11417
18	382	11546	18	452	13505	19	522	10029	20	592	6712	20	662	11604
18	388	11605	18	453	13533	19	523	10315	20	593	6655	20	663	11622
18	384	11677	18	454	13560	19	524	10331	20	594	6884	20	664	11651
18	385	10810	18	455	13637	19	525	10386	20	595	6747	20	665	11701
18	386	11834	18	456	13640	19	526	10619	20	596	6668	20	666	11859
18	387	11850	18	457	13651	19	527	10683	20	597	6675	20	667	12118
18	388	11908	18	458	13665	19	528	10821	20	598	7104	20	668	12123
18	389	11916	18	459	13668	19	529	11268	20	599	7110	20	669	12218
18	390	11072	18	460	13673	19	530	11470	20	600	7168	20	670	12370
18	391	12073	18	461	13676	19	531	11805	20	601	7130	20	671	12469
18	392	12195	18	462	13681	19	532	11809	20	602	7234	20	672	12720
18	393	12241	18	463	13695	19	533	11971	20	603	7387	20	673	12810
18	394	12395	18	464	13704	19	534	12110	20	604	7398	20	674	12824
18	395	12434	18	465	13713	19	535	12156	20	605	7401	20	675	12575
18	396	12440	18	466	13721	19	536	12332	20	606	7514	20	676	12930
18	397	12447	18	467	13741	19	537	12454	20	607	7554	20	677	13129
18	398	12459	18	468	13744	19	538	12669	20	608	7700	20	678	13199
18	399	12475	18	469	13748	19	539	12845	20	609	7725	20	679	13204
18	400	12587	18	470	13768	19	540	12860	20	610	7726	20	680	13229
18	401	12480	18	471	13863	19	541	13017	20	611	7743	20	681	13267
18	402	12531	19	472	13867	19	542	13115	20	612	7883	20	682	13315
18	403	12533	19	473	13878	19	543	13157	20	613	8019	20	683	13335
18	404	12548	19	474	13899	19	544	13169	20	614	8037	20	684	13341
18	405	12593	19	475	13934	19	545	13174	20	615	8401	20	685	13363
18	406	12605	19	476	13950	19	546	13202	20	616	8403	20	686	13492
18	407	12618	19	477	13958	19	547	13435	20	617	8424	20	687	11494
18	408	12671	19	478	13974	19	548	13457	20	618	8448	20	688	13640
18	409	12682	19	479	13975	19	549	13740	20	619	8531	20	689	13648
18	410	12691	19	480	13976	19	550	13931	20	620	8534	20	690	13690
18	411	12714	19	481	13979	19	551	14034	20	621	8536	20	691	13595
18	412	12765	19	482	13987	19	552	12120	20	622	8665	20	692	13718
18	413	12805	19	483	14018	19	553	6339	20	623	8691	20	693	13872
18	414	12815	19	484	14042	19	554	8805	20	624	8738	20	694	13861
18	415	12830	19	485	14043	19	555	9144	20	625	8820	20	695	13956
18	416	12833	19	486	14044	19	556	9075	20	626	8822	20	696	14082
18	417	12836	19	487	14045	19	557	9300	20	627	8829	20	697	14088
18	418	12840	19	488	14059	19	558	10012	20	628	9036	20	698	14099
18	419	12841	19	489	14158	19	559	10094	20	629	9069	20	699	14192
18	420	12852	19	490	14185	19	560	10587	20	630	9144	20	700	14186

Tab. 3 遺失物ナンバー対照表 (3)

Fig	報告No	注記No	Fig	報告No	注記No									
21	701	14167	21	771	13291	23	841	11706	24	911	2356	以下、遺標外出土石器		
21	702	14220	21	772	7063	23	842	12529	24	912	2924	25	1	8439
21	703	14223	21	773	7781	23	843	12610	24	913	2752	25	2	17
21	704	14330	21	774	8698	23	844	12634	24	914	6011	25	3	215
21	705	表面採集	21	775	8712	23	845	12926	24	915	6304	25	4	1939
21	706	表面採集	21	776	9206	23	846	12953	24	916	6340	25	5	3929
21	707	表面採集	21	777	11529	23	847	12990	24	917	6846	25	6	5921
21	708	表面採集	22	778	12507	23	848	12994	24	918	6761	25	7	7261
21	709	表面採集	22	779	表面採集	23	849	12495	24	919	6957	25	8	7626
21	710	177	22	780	—	23	850	13002	24	920	6974	25	9	8261
21	711	6482	22	781	—	23	851	13376	24	921	6595	25	10	8177
21	712	6698	22	782	—	23	852	13392	24	922	7050	25	11	9469
21	713	8221	22	783	—	23	853	8380	24	923	7152	25	12	11952
21	714	8652	22	784	—	23	854	8904	24	924	7189	25	13	11973
21	715	9065	22	785	—	23	855	9826	24	925	7617	25	14	12226
21	716	9128	22	786	—	23	856	9849	24	926	7752	25	15	12585
21	717	9334	22	787	—	23	857	13724	24	927	7753	25	16	13606
21	718	11643	22	788	—	23	858	4125	24	928	7770	25	17	13809
21	719	11860	22	789	—	23	859	4610	24	929	7805	25	18	13888
21	720	13868	22	790	—	23	860	7033	24	930	表面採集	25	19	4923
21	721	13896	22	791	—	23	861	8280	24	931	7807	25	20	5049
21	722	14779	22	792	—	23	862	12165	24	932	7839	25	21	6575
21	723	8238	22	793	—	23	863	12360	24	933	7842	25	22	12790
21	724	41	22	794	—	23	864	12444	24	934	9017	25	23	1866
21	725	166	22	795	—	23	865	2105	24	935	9622	25	24	417
21	726	752	22	796	—	23	866	3162	24	936	9583	25	25	13823
21	727	1052	22	797	—	23	867	3107	24	937	11956	25	26	1405
21	728	1806	22	798	—	23	868	3176	24	938	10642	25	27	12708
21	729	1808	22	799	—	23	869	3901	24	939	10580	25	28	11317
21	730	1212	22	800	13677	23	870	3576	24	940	10696	25	29	13293
21	731	5897	22	801	13618	23	871	3748	24	941	11047			
21	732	5979	22	802	13464	23	872	4120	24	942	11382			
21	733	6333	22	803	13629	23	873	4198	24	943	11286			
21	734	6337	22	804	13672	23	874	4362	24	944	11909			
21	735	6572	22	805	1463	23	875	4581	24	945	11461			
21	736	6624	22	806	表面採集	23	876	3748	24	946	12212			
21	737	7602	22	807	1871	23	877	6151	24	947	13154			
21	738	7786	22	808	2780	23	878	10518	24	948	13220			
21	739	8406	22	809	5659	23	879	11284	24	949	13701			
21	740	8815	22	810	7094	23	880	12884	24	950	13921			
21	741	9438	22	811	7706	23	881	13290	24	951	13927			
21	742	9440	22	812	7999	23	882	14215	24	952	2102			
21	743	9682	22	813	8124	23	883	14428	24	953	294			
21	744	9875	22	814	9599	23	884	6905	24	954	2539			
21	745	9956	22	815	10666	23	885	6938	24	955	7822			
21	746	10143	22	816	11448	23	886	7014	24	956	14226			
21	747	10672	22	817	11457	23	887	8091	24	957	782			
21	748	10677	22	818	13401	23	888	14484	24	958	1833			
21	749	11273	22	819	表面採集	23	889	9506	24	959	14293			
21	750	11422	22	820	12687	23	890	12124	24	960	表面採集			
21	751	12012	22	821	2128	23	891	11138						
21	752	11287	22	822	2333	23	892	9711						
21	753	12007	22	823	3698	24	893	82						
21	754	12888	22	824	4164	24	894	85						
21	755	13885	22	825	4212	24	895	224						
21	756	14036	22	826	8187	24	896	372						
21	757	14203	22	827	2383	24	897	460						
21	758	12976	22	828	4902	24	898	464						
21	759	13336	22	829	5267	24	899	638						
21	760	13373	23	830	5055	24	900	651						
21	761	13477	23	831	5422	24	901	663						
21	762	356	23	832	8413	24	902	784						
21	763	7679	23	833	14131	24	903	963						
21	764	12694	23	834	3752	24	904	965						
21	765	11525	23	835	3968	24	905	1208						
21	766	8145	23	836	12059	24	906	1456						
21	767	8145	23	837	表面採集	24	907	1280						
21	768	6447	23	838	4097	24	908	1791						
21	769	6648	23	839	11686	24	909	1869						
21	770	6961	23	840	11700	24	910	1949						

Tab. 4 遺物ナンバー対照表 (4)

## 第Ⅴ章 考察

### 第1節 萩蒲池遺跡出土の遺物について

ここでは萩蒲池遺跡の主体となる弥生時代の土器資料について記述する。

#### (1) 萩蒲池遺跡Ⅱ群土器について

「萩蒲池遺跡Ⅱ群」とした土器資料群は弥生時代中期初頭を中心とした時期の所産が考えられるものである。特に山梨県地域ではこの時期の出土資料はこれまでごくわずかの資料しか得られておらず、さらに甲府盆地周辺でのまとまった資料は断片的に散見される程度の状況であった。萩蒲池遺跡で得られた資料はこの空白の一部を埋めるものであり、他地域との比較検討の素材になりうる資料群であろう。

山梨県地域における該期の資料群については、中山誠二氏の先行研究（中山 1985、中山 1993ほか）があり、編年的位置付けが試みられている。ここではそれらの研究成果をベースに「萩蒲池遺跡Ⅱ群」の位置付けを考えてみたい。

#### (2) 器種構成

まず、「萩蒲池遺跡「群」の器種構成についてであるが、器形を明確に把握できる資料がほとんどないことから、詳細不明とせざるを得ない状況である。ただし、大胆な推測を交えるならば、基本的には壺形土器と變形土器（一部に深鉢形土器とも考えられるものあり）で成り立ち、それぞれの大きさによる分化（大型・小型など）が予測されるところではある。なお、両者の比定は口縁部周辺の資料から推測するのが限界である。

まず、壺形土器については、「Ⅱ群-1類-B種」とした口縁部直下に刻みを施す突帯を持つ一群が比定できるものと思われる。ただし、小破片ばかりであり、細口などの広口などの判断はできない。なお、壺形土器については、SP031土坑から出土した小型壺となる可能性があり、器種に小型壺が加わることとなるかも知れない。

變形土器については、「Ⅱ群-1類-A種」や「Ⅱ群-1類-C種」とした口縁端部上に刻みが施される一群および「Ⅱ群-1類-D種」とした横方向の指で等で形作られた尖る口縁端部直下に条痕文が施される一群が該当するものと考えられる。ただし、こちらも小破片のため大きさ等は不明ではある。

なお、「Ⅱ群-1類-A種」とした丸みのある口縁部直下に沈線が横走する一群については、「深鉢形土器」となる可能性もあるが、明瞭ではないのでここでは除外して考えた。

#### (3) 壺形土器の位置付け

壺形土器と考えられる一群（「Ⅱ群-1類-B種」）の位置付けを試みる。

この一群の最大の特色は口縁端部の直下に巡る突帯とそれに対する刻みの存在である。突帯の幅は比較的に細く、断面形状はだれた（丸みを帯びた）三角形となる。また、一部の例外（遺構外-30）を除いて突帯は一列が巡るのみである。刻みの技法には工具差（ヘラ状工具の先端部・棒状工具の側面）や技術差（深い押圧・浅い押圧・指頭での補助など）があり一樣ではないが、基本的には「工具による施文」が共通傾向として認められる。つまり、突帯端部を尖らせようとする意識の薄れが見えるのであり、全体的にまとめるならば、「突帯とそれに対する刻みの形骸化」が見受けられるのである。山梨県地域では「刻みを施す突帯を持つ壺（設楽博己氏のいう「在地型突帯文壺」（設楽1985））」は弥生時代前期（中山氏のいう「甲斐弥生0-（3）期」）に東海地方西部「櫻王式」の影響を受けて現われ、弥生時代前期後半（中山氏のいう「甲斐弥生1期」）に多く見られながらも、弥生時代中期中葉（中山氏のいう「甲斐弥生3期」）には見られなくなる系譜があるものと考えられている。よって、「萩蒲池遺跡Ⅱ群-1類-B種」はその「末期的な症状」から見て、弥生時代中期中葉を通りつつも弥生時代前期後半では遅らない時期への帰属を考えることが妥当であると考えられる。

#### (4) 變形土器の位置付け

變形土器と考えられる一群（「Ⅱ群-1類-C種」、「Ⅱ群-1類-D種」）の位置付けを試みる。

「Ⅱ群-1類-C種」および「Ⅱ群-1類-D種」はいずれも薄手の作りであり、口縁端部が尖る点や概ね外反する端部形状が共通するものである。しかしながら、口縁端部に刻みが連続して施されるか否かの点で類似例を探査していくと、どうも別系統の土器として捉える方が相応しいようである。つまり、「Ⅱ群-1類-C種」のように口縁端部に連続する刻みが施される土器は山梨県地域においては、弥生時代前期（中山氏のいう「甲斐弥生0-（3）期」）の變形土器に祖形が見られ、韮崎市宮ノ前遺跡などに事例がある。一方、口縁端部に刻

みがなく、横方向の施で等による沈線状の段が巡るものは弥生時代前期後半（中山氏のいう「甲斐弥生1期」）から見られる平縁口縁の深鉢形土器や口縁端部に山形小突起を持つ深鉢形土器に系譜を求めるべきものであり、菖蒲池遺跡とほぼ同時期の都留市生出山山頂遺跡の他には類例がないものである。よって、菖蒲池遺跡の變形土器は系譜差のある2種が共存する形となっている可能性がある。ただし、變形土器と深鉢形土器の区分けが明確にできない菖蒲池遺跡の小破片資料からはその可能性を示すことにどめざるを得ない。

#### （5）時期的位置付け

菖蒲池遺跡II群土器の主たる資料となる変形土器および變形土器については前述のとおりであり、その時期はおおむね弥生時代中期初頭の範囲内に置かれるものと考えられる。この時期については、山梨県では「甲斐弥生編年2期」（中山 1993）と呼称され、全国的には「弥生Ⅱ期」（佐原 1983）にほぼ対応する。また、周辺地域である東海地方東部では「丸子式」に、関東地方では「岩櫃山・須和田系I～II期」に、信濃では「寺所式」（下伊那地域）・「庄の畠式」（諏訪地域～上伊那～松本）・「新諏訪町II式」（長野盆地）にそれぞれほぼ並行する時期である。

#### （6）その他の土器資料について

ここでは菖蒲池遺跡II群のその他の土器資料について記述する。

##### ①口縁内面に条痕文が施される土器

菖蒲池遺跡II群の資料には口縁内面に条痕文が施されるものがある（遺構外-25、48など）。これは「II群-1類-B種」とした口端部直下に刻みを施す突帯が巡る土器のごく一部に限って見られるものであり、特徴的である。

##### ②縄文の施される土器

「II群-2類-G種」として一括したものである。太い沈線区画文を伴うもの（734、735、736など）や円形沈線文を伴うもの（753）などがあるが数量的には極めて少ない。いずれも胎土や焼成の点でも条痕文が施されるものと区別され、いかにも客体的な様相を示している。なお、口縁部に縄文が施され隆線が垂下するもの（760、761）については、現在までのところ類例を見ないものである。

##### ③刺突文の施される土器

「II群-2類-H種」として一括したものである。沈線区画の内側に刺突文を充填したものもあり、菖蒲池遺跡II群の全体的な位置付けから見ると、やや後出的な要素として特筆できるものである。ただし、SP031土坑では他の土器群との共伴関係が確認されており、時期的位置付けの再考が必要かも知れない。

## 第2章 菖蒲池遺跡検出の遺構について—土坑の性格を中心として—

ここでは菖蒲池遺跡の主体となる弥生時代の遺構について記述する。

#### （1）各土坑の性格について

菖蒲池遺跡で検出された土坑は19基であるが、これらのうち一定量（20点）以上の遺物が出土し、弥生時代中期初頭の所産（あるいは埋没）が考えられたものはわずか7基のみである。それぞれの土坑の形状・出土遺物・分析の結果等は前章および付録を参照いただくこととし、ここではいくつかの課題について述べておきたい。

##### ①「墓壙」であるか否かの検討

土坑の持ち得る機能の一つが「埋葬される墓」＝「墓壙」である。菖蒲池遺跡の弥生時代中期初頭期の土坑については、弥生時代中期という時期性や立地、他の遺構に住居などの建物遺構が皆無だったことなどから「墓壙」としての可能性が想定された。よって調査時には人骨（細かい骨片や歯なども含む）や副葬品的な遺物に十分留意したが、そのいずれも得ることはできなかった。しかし、調査時から土壤サンプルを採取するよう努め、限られた予算範囲内でリン酸分析を依託実施した。結果的にはSP031、032、034の3つの土坑からリン成分の高い埋納物の存在が指摘され、墓壙としての可能性を指摘できる数値が得られた。これらの土坑は出土遺物数が比較的に多く、031の小型壺や032の壺（あるいは甕）のように残存状況が良好な遺物がある点でも共通している。また、031の壺内部の覆土にはより高いリン成分の存在が指摘されており、何らかの生物の一部（人骨等）が土器内に納めた可能性がある。科学分析の結果をもってただちに遺構の性格を決定することは好ましくないが、少なくとも墓壙である可能性の高い点だけは指摘しておきたい。

## ②「再葬墓」であるか否かの検討

菖蒲池遺跡から検出された土坑に「墓壙」の可能性の高いものが含まれている点は前述したとおりである。ところで弥生時代中期初頭の関東甲信越静地区周辺における代表的な墓制に再葬墓がある。再葬墓についてはその葬送プロセスや用語の問題を含め、多くの研究が重ねられている。「再葬」という概念で共通して言えることは、「最終的な葬送に至るまで少なくとも二度ないしはそれ以上の遺体処理過程をふむ」ことであり（書上 1988）、ここでいう最終結果が土器等を納骨器として用い土坑内に納めた「再葬墓」であるということである。菖蒲池遺跡の発掘調査においては、円形で遺物を比較的多く含む土坑が「再葬墓」であるという結論は導き得ない。しかし、SP031、032、034のように墓壙の可能性があり、まとまった土器資料が伴っているものについては、逆に「再葬墓」ではないと断言することもできない。特にSP031のように小型窓内に高いリン成分が遺存するものについては、遺体すべてではなくその一部を納めることが可能となるケースを想定すべきであり、そのひとつに「再葬」を挙げることができるからである。

また、共伴する遺物にも留意する必要がある。他地域における再葬墓への副葬品としては玉類、石錐、黒曜石剥片、石斧、砥石などが代表的なものとして知られている。菖蒲池遺跡の土坑では玉類こそ伴わないものの、黒曜石製の石錐等を伴うもの（SP031、034、036）、黒曜石剥片（チップ含む）をともなうもの（SP031、032、034、079、080）、打製石斧を伴うもの（SP034）などがあり、出土遺物からは再葬墓的な状況が見られるのである。以上の状況から菖蒲池遺跡の土坑には「再葬墓的色合いのある土坑」も含まれていることを指摘しておきたい。

## ③再葬に至るプロセスの痕跡についての検討

菖蒲池遺跡の土坑には「再葬墓的色合いのある土坑」が含まれるのであるが、再葬に至る過程で残されるであろう遺構はないのであろうか。この点については、調査時から気にかかっていたことがある。それは土坑の平面的な分布状況と形態の差異である。

分布状況については、同じような円形の平面形状・規模であるにも関わらず遺物を多く含む土坑（SP031、032、034、035、079、080、082の7基）と遺物をあまり含まない土坑（SP002、033、036、040、044など）の二者が存在することへの疑問があった。単なる時期差とも見られたが、小さい自然谷を取り巻く様子や覆土の類似性から同時期にあった可能性もあると見られた。この点については、特に土坑群からやや離れた場所に隣接して存在するSP034（遺物多い・リン酸多い）と044（遺物少ない・リン酸少ない）との関係から「再葬墓」対「一次葬」の関係を推測することはできないものかとも考えたのであるが、結論は導き出せていない。今後の検討課題として書き残すにとどめる。

また、形態差については、近接して存在する円形土坑と長楕円形土坑の関係である。具体的にはSP031（円形・遺物多い・リン酸多い）とそれに切られる形で存在するSP072（長楕円形・遺物なし・リン酸少ない）の関係である。両者の関係に「円形で土器を用いた再葬墓」対「長楕円形で伸展葬（一次葬）」の後に廃棄され、再葬墓に切られた土坑」の関係を推測することはできないものかとも考えたのであるが、結論は導き出せていない。同じく今後の検討課題として書き残すにとどめる。

なお、各土坑については自然谷を中心として分布しており、グループ化して考えることも可能であろうが、ここでの分析は行わない。時期差や性格差を含め、より深く検討を重ねたい。

## 第3節 菖蒲池遺跡について一調査の成果と今後の課題一

菖蒲池遺跡の発掘調査は平成4年の初夏に始められた。調査開始の段階から過去の調査経過から見ても弥生時代の遺跡しかも「再葬墓」に関わる遺跡があるのでないかと半ば決め込んで臨んだ記憶がある。その思い込みを助長するかのように、調査区の一部から弥生時代中期を前後する時期の所産と考えられる土器片が出土しはじめ、さらには頃合の大さきの土坑プランが次々に見つかり始めたのである。そのような状況は「弥生時代中期といえば再葬墓」という先入観を先入観以上のものに換え、ほぼ同じような規模・形状の土坑プランが自然谷を取り巻く光景を勝手に「墓壙群」、いや「再葬墓群」と思い込む寸前までになったことであった。しかしながら、その後に土坑を半蔵し、作業を進めるうちに「再葬墓」という意識は薄れていった。「再葬墓」を考える前にこれらの土坑が「墓」であるかどうかを先ず考えるべきだと思うようになったのである。その検討結果は前節で述べたとおりであり、現在でも不明確なことは多い状況である。結果的には土坑のいくつかは「墓」である可能性が高く、「再葬墓」ではないとは言い切れないところまでしか答えは出せていない。しかし、調査で得られた土坑のデータおよび多量の土器資料は特に弥生

時代中期初頭という山梨県ではまだあまり資料のない時期を検討する上で欠くことのできないものとなり、今後に周辺各地域との比較検討を行うための資料ともなった。より細かな検討は報告書刊行後にさらに深めることしたいが、ここではいくつかの課題点を列記しておく。

- ①菖蒲池遺跡で検出された土坑の個別分析と「グループ」という視点での分析
- ②土坑内出土遺物の総合的な評価（特に他地域に見られる再葬墓への副葬品という視点での分析）
- ③出土遺物のうち、特に類例の少ない「菖蒲池遺跡II群」の詳細分析とその意義付け
- ④土坑群を造した人々の居住域の探索と該期の土地利用のあり方の検討
- ⑤古墳時代前期の遺物集中区の詳細な分析と評価

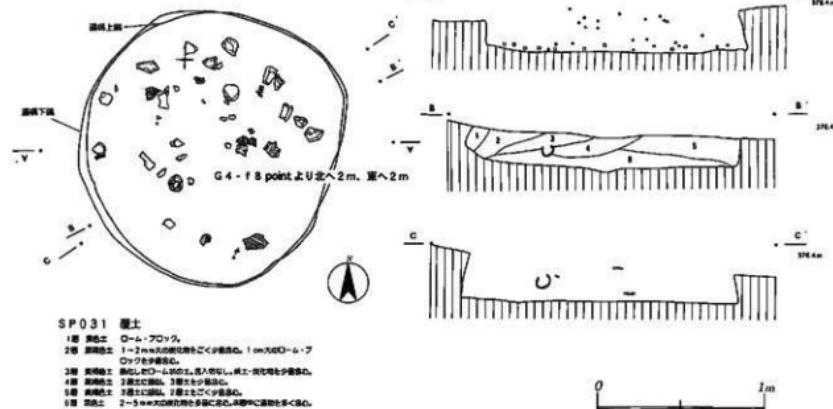
以上、菖蒲池遺跡の検討課題はこれ以外にもまだまだあるが、代表的なものを挙げ、調査担当者としての責務のひとつとして今後も継続的に取り組むこととしたい。

なお、発掘調査から報告書刊行までお世話になったすべての方々に深く感謝いたします。

#### （参考文献）

- 愛知県考古学講話会 1985年 「《条痕文土器》文化をめぐる諸問題—縄文から弥生へー」資料編Ⅰ  
石川日出志 1985年 「関東地方初期弥生式土器の一系譜」 『日本歴史』  
石川日出志 1989年 「再葬墓—研究の課題ー」『考古学ジャーナル』302 ニューサイエンス社  
石黒立人 1988年 「《条痕文土器》文化の理解をめぐる2、3の問題について」『《条痕文土器》文化をめぐる諸問題—縄文から弥生へー』  
資料編Ⅱ・研究編 愛知県考古学講話会  
吉上元博 1988年 「東日本弥生文化黎明期の墓制に関する覚書—いわゆる再葬墓制を中心としてー」「東日本の弥生墓制—再葬墓と方形圓溝墓ー」  
群馬県考古学研究所・千曲川水系古代文化研究所・北武藏古代文化研究会  
齋藤 道 1990年 「関東地方における弥生時代成立の様相—「岩櫃山・須和田系」土器の編年と領域ー」  
『東京都埋蔵文化財センター研究論集』Ⅷ 東京都埋蔵文化財センター  
佐原 真 1985年 「弥生土器入門」「弥生土器」(1) ニューサイエンス社  
設楽博己 1985年 「関東地方の《条痕文系》土器—西部東海系条痕文土器を中心としてー」「《条痕文土器》文化をめぐる諸問題ー縄文から弥生へー」  
『愛知県考古学講話会』  
中村友博 1988年 「「若狭原・柳坪式を設定して条痕文土器を体系化すること」「《条痕文土器》文化をめぐる諸問題—縄文から弥生へー」  
資料編Ⅱ・研究編 愛知県考古学講話会  
中山誠二 1985年 「甲斐における弥生文化の成立」「研究紀要」2 山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター  
中山誠二 1988年 「山梨県における弥生時代の墓制」「東日本の弥生墓制—再葬墓と方形圓溝墓ー」  
群馬県考古学研究所・千曲川水系古代文化研究所・北武藏古代文化研究会  
中山誠二 1992年 「宮ノ前遺跡出土の縄文時代晚期末業から弥生時代中期初頭の土器群」「山梨県韭崎市宮ノ前遺跡」 韭崎市遺跡調査会ほか  
中山誠二 1993年 「甲斐弥生土器編年の現状と課題—時間軸の設定ー」「研究紀要」9 山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター  
越間真一 1977年 「山梨県北巨摩地方の弥生時代初頭土器について」 『信濃』29-8  
渡辺修一 1986年 「関東地方における弥生時代中期前半の地域相」「千葉県文化財センター研究紀要」10 千葉県文化財センター

SP031



SP034

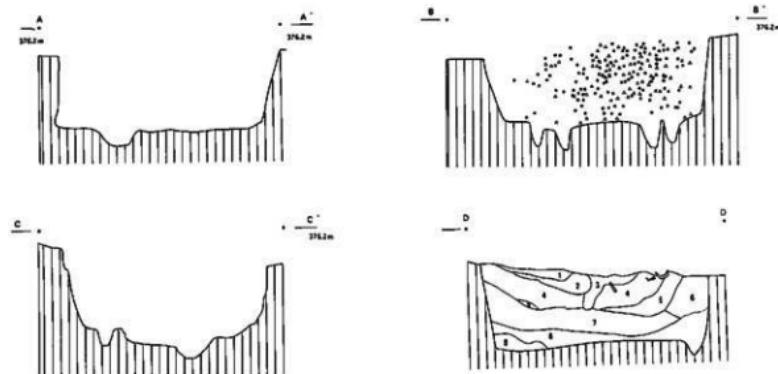
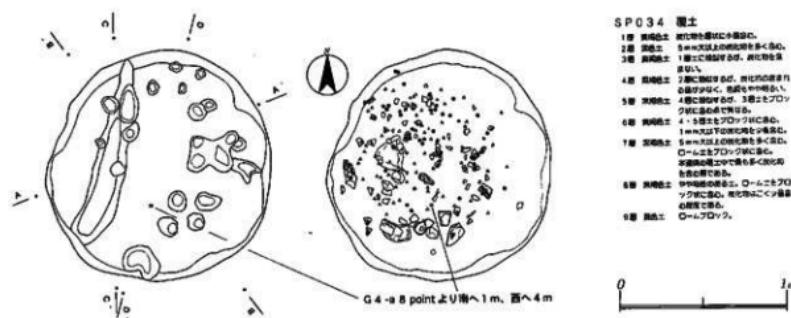


Fig. 5 SP031, 034 遺構図

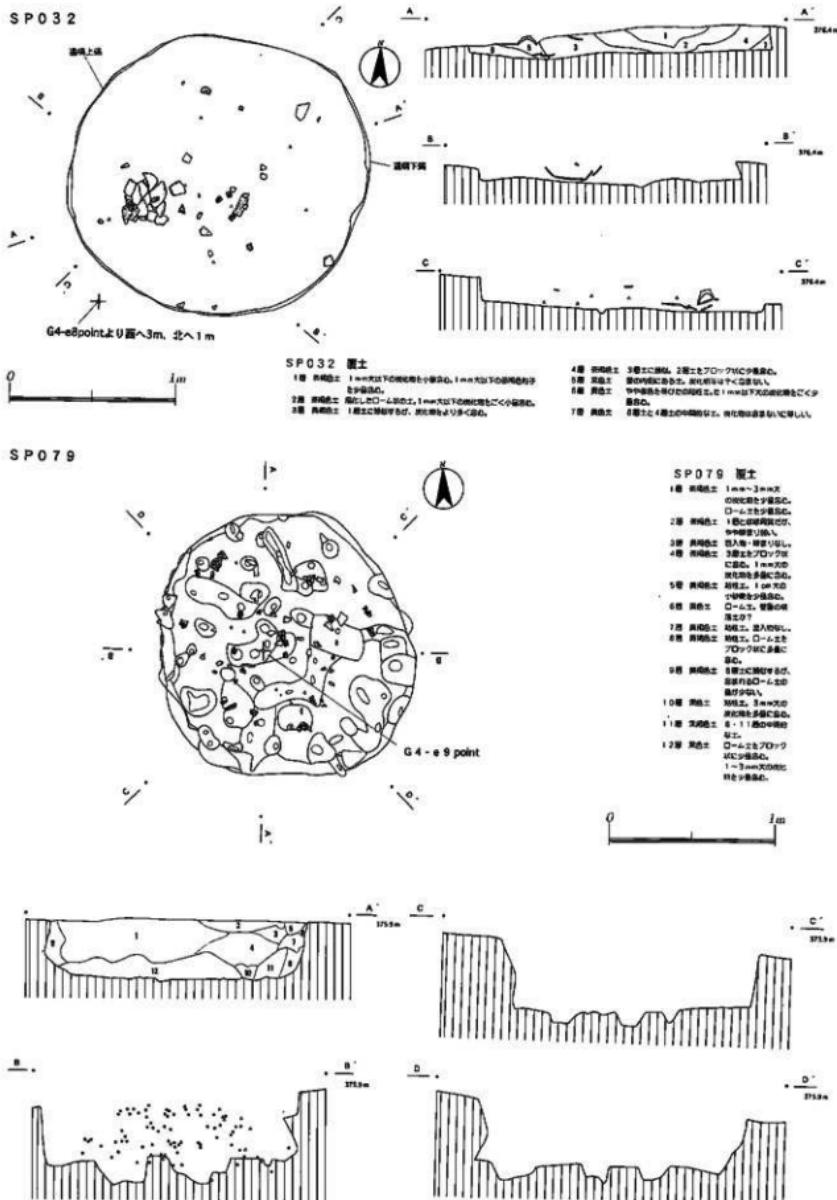
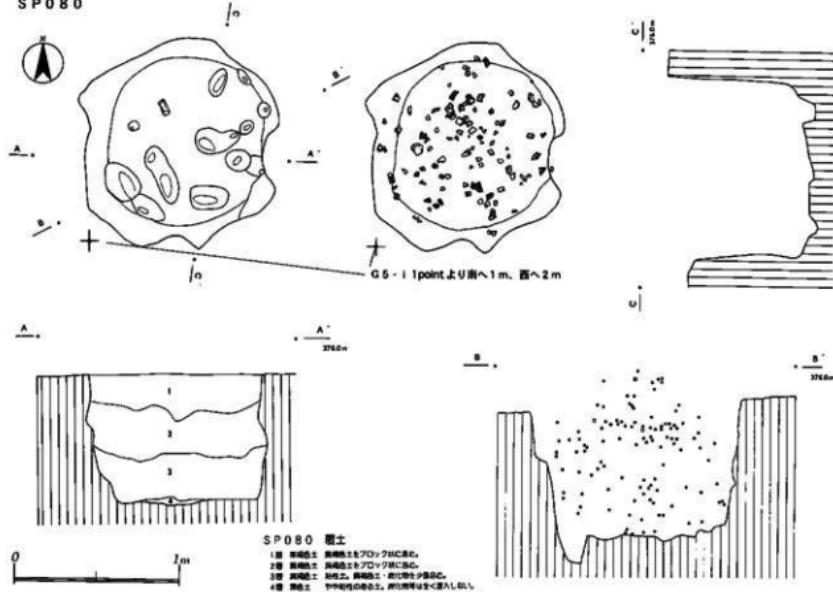


Fig. 6 SP032, 079 遺構図

SP080



SP082

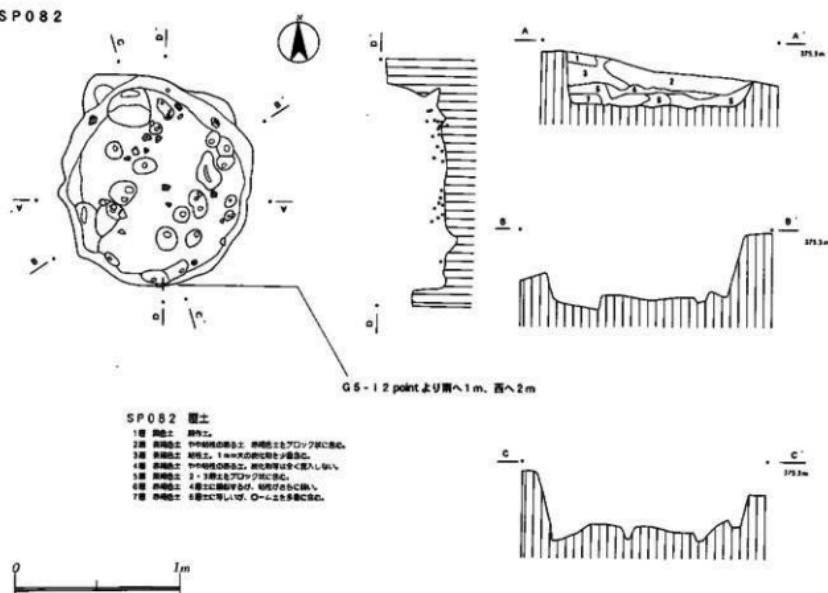
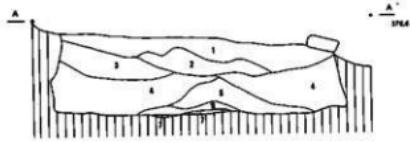
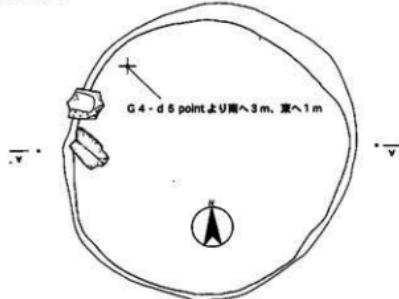


Fig. 7 SP080, 082 造構図

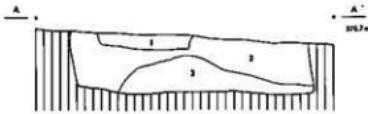
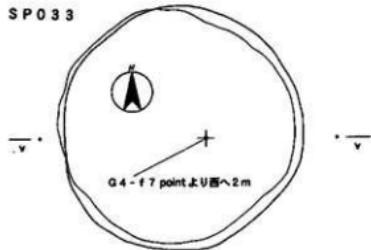
SP002



SP002 地土

- 1層 地表土 2cmの褐色土。地土の子を少含む。
- 2層 地表土 10cmの褐色土。小石や砂で散在りし、薄い部分有。
- 3層 地表土 20cmの褐色土。小石や砂で散在。
- 4層 地表土 10cmの褐色土を含む褐色土。
- 5層 地表土 10cmの褐色土を含む褐色土。
- 6層 地表土 5cmの褐色土。地土を含む褐色土。
- 7層 地表土 10cmの褐色土を含む褐色土。

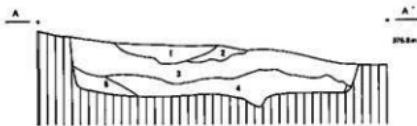
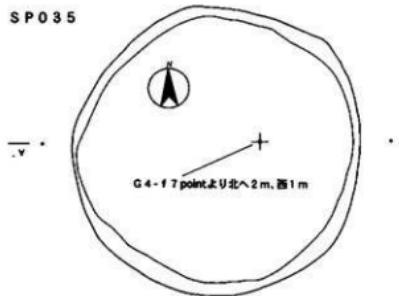
SP033



SP033 地土

- 1層 地表土 10cm以下の褐色土を含む。1cm以上の小石含む。
- 2層 地表土 10cm。1cm以上の小石含む。
- 3層 地表土 20cmに褐色土。地土を含む褐色土で  
ある。

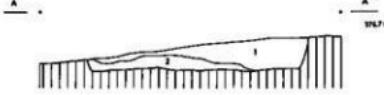
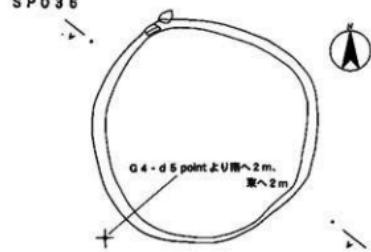
SP035



SP035 地土

- 1層 地表土 10cm以下。1cm以上の褐色土を含む。ローム土。
- 2層 地表土 10cm。1cm以上の褐色土を含む。
- 3層 地表土 サンド地盤あり。4層土をブロック状に含む。
- 4層 地表土 褐色土。砂質土。
- 5層 地表土 細粒セメント土。

SP036



SP036 地土

- 1層 地表土 10cm以下。1cm以上の褐色土を含む。
- 2層 地表土 10cm以下。1cm以上の褐色土を含む。ローム  
土。



Fig. 8 SP002, 033, 035, 036 遺構図

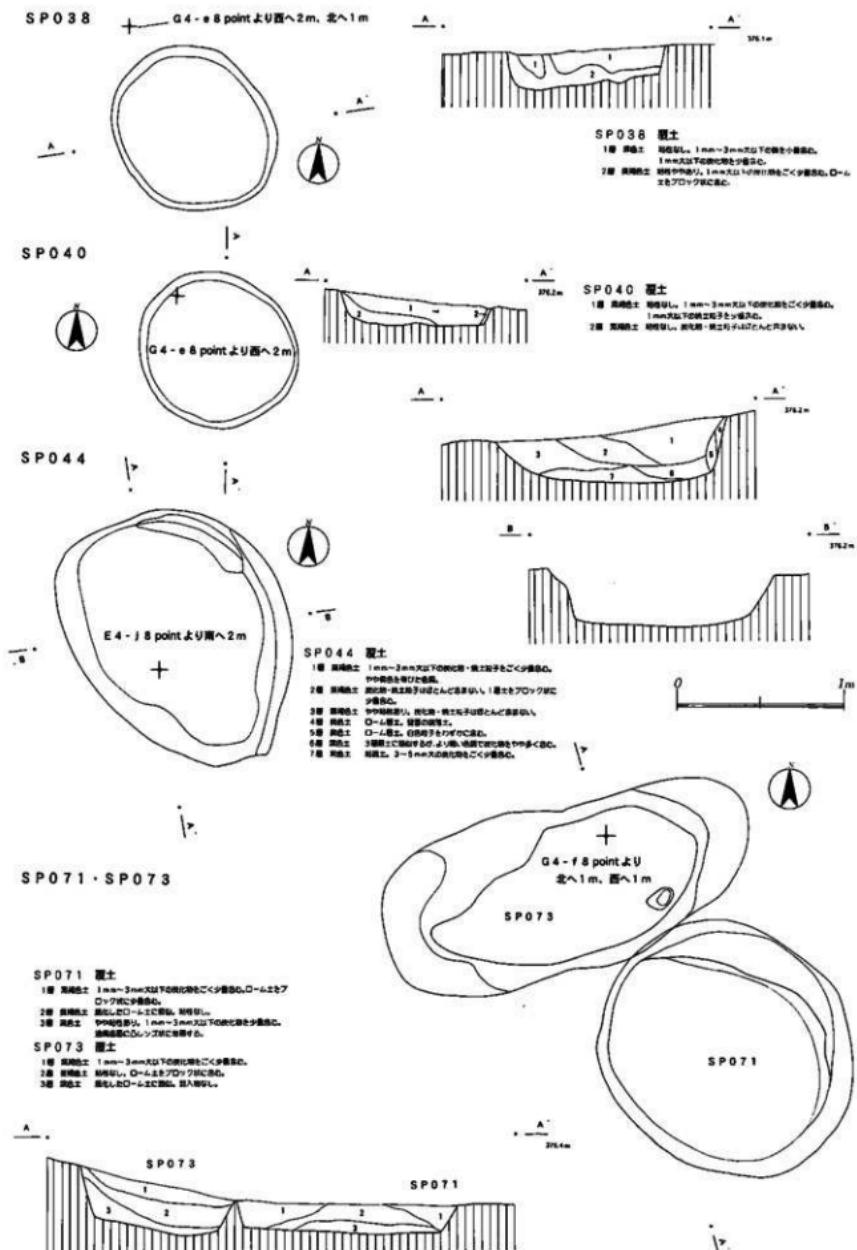


Fig. 9 SP038, 040, 044, 071, 073 造構図

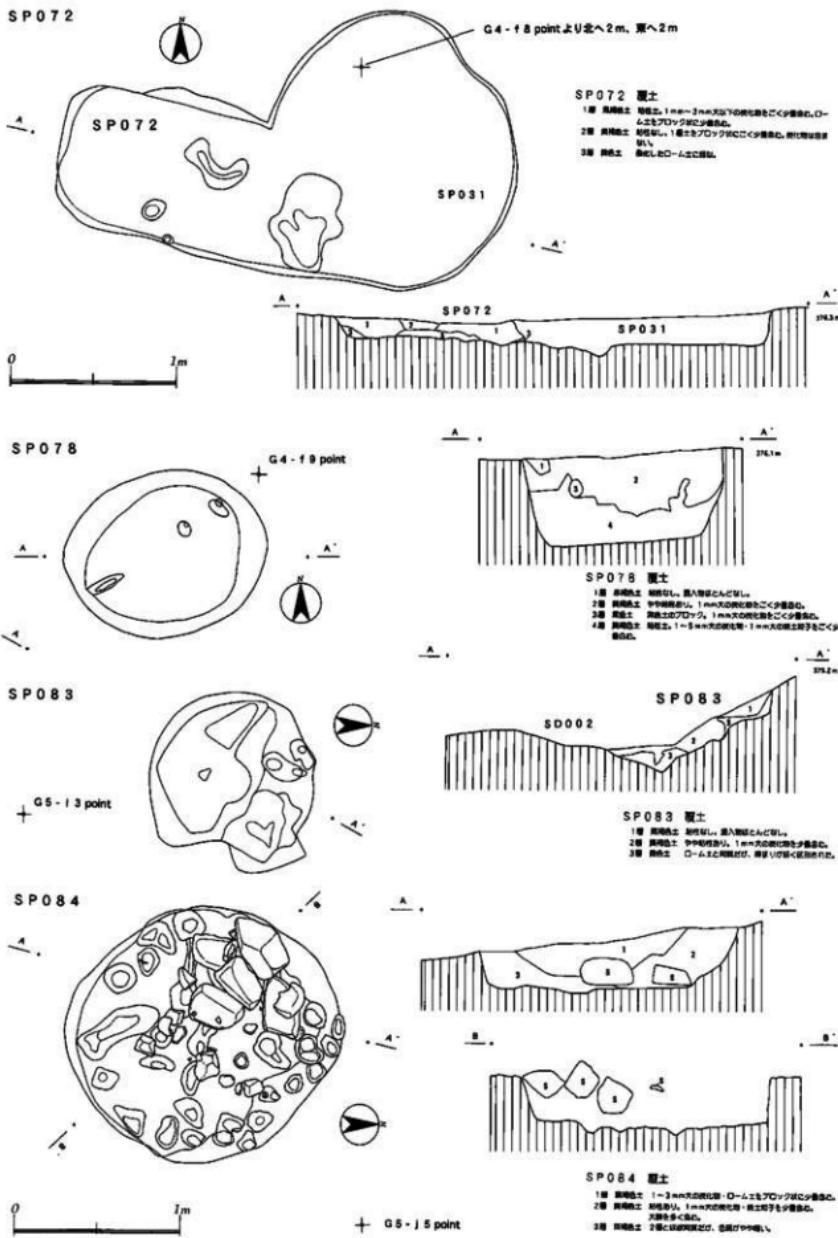


Fig.10 SP072、078、083、084 遺構図

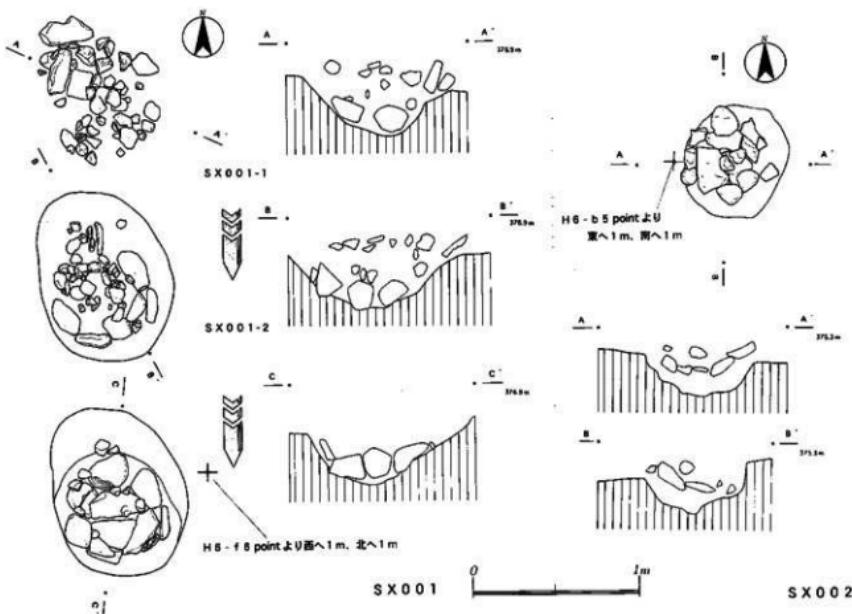
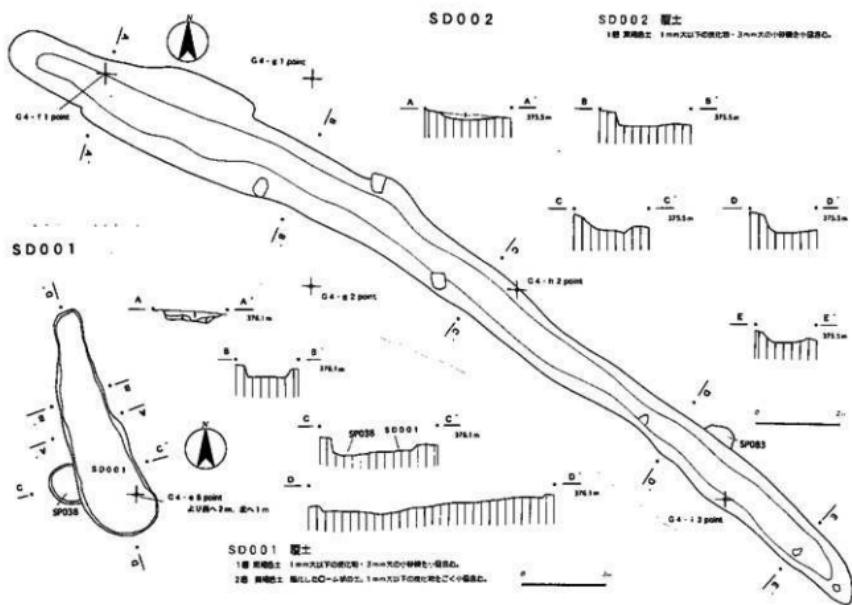


Fig.11 SD001、002、SX001、002 遺構図

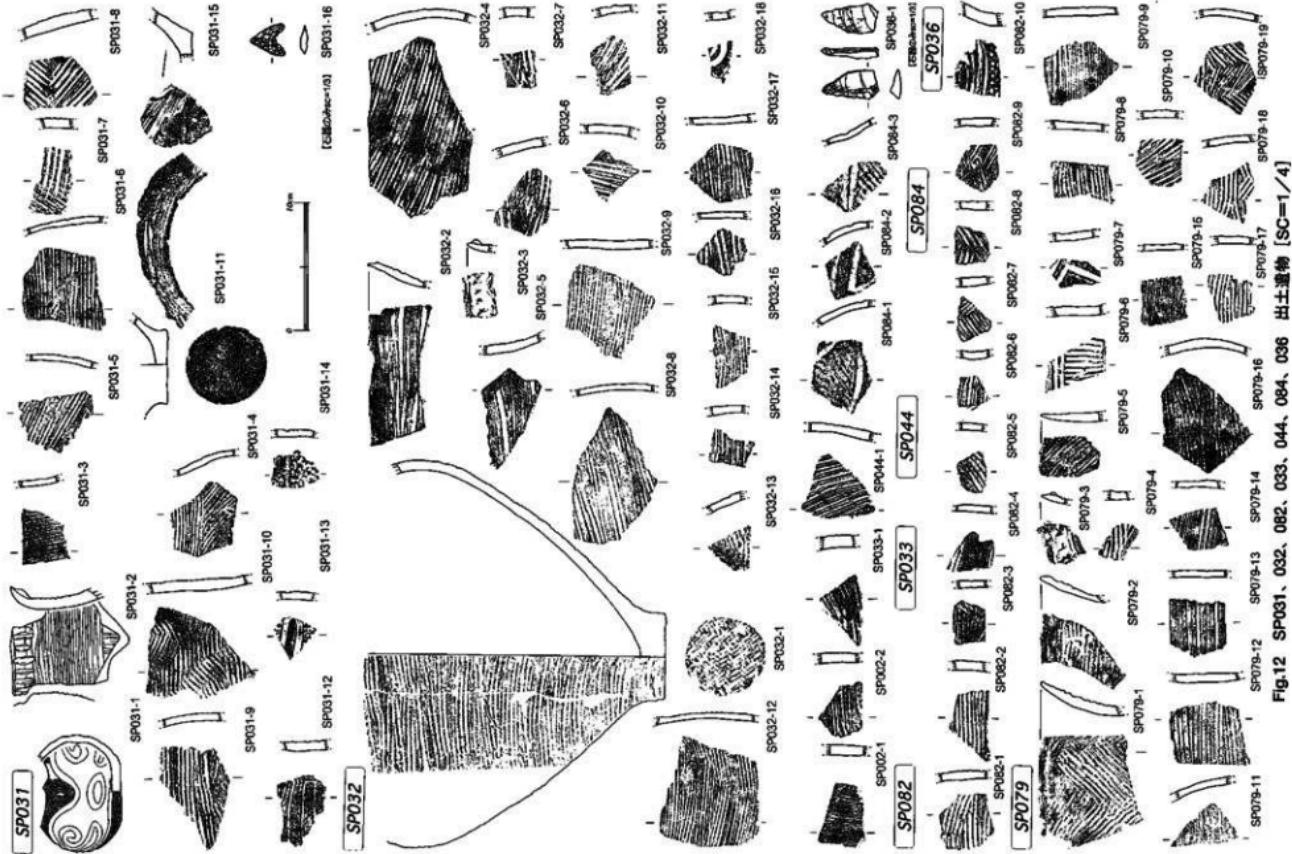


Fig.12 SP031、032、082、033、044、084、036 出土遺物 [SC=1/4]

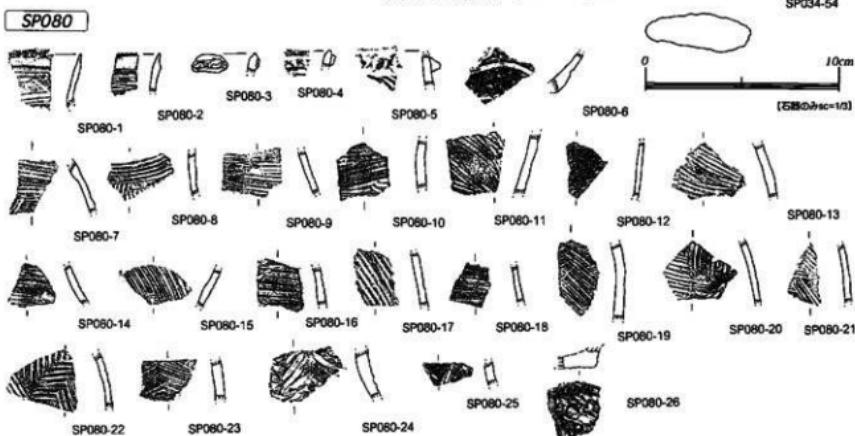
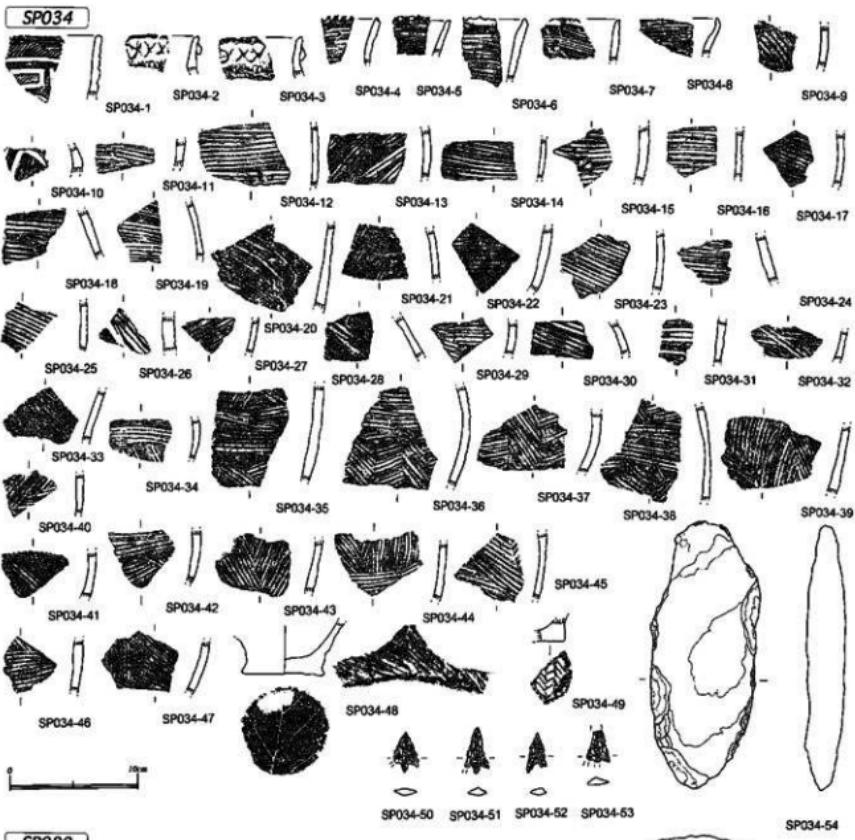


Fig.13 SP034、080 出土遺物

Fig.14 遺構外出土遺物分布図

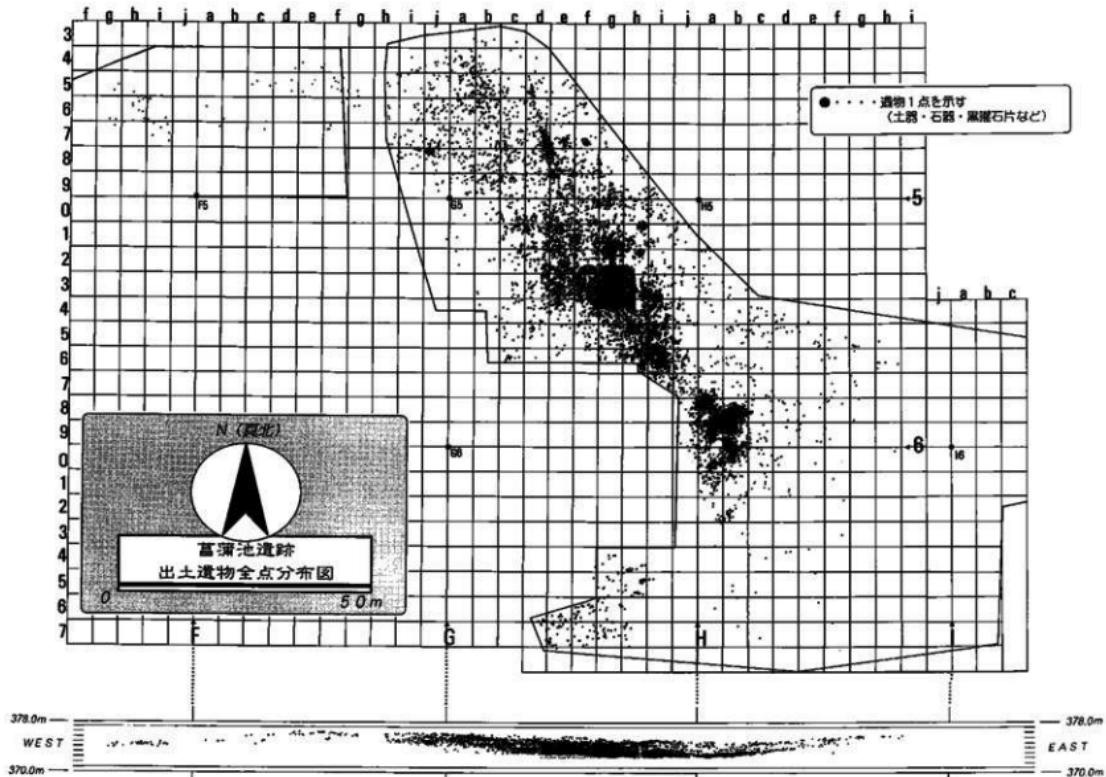




Fig.15 造構外出土遺物 (1)

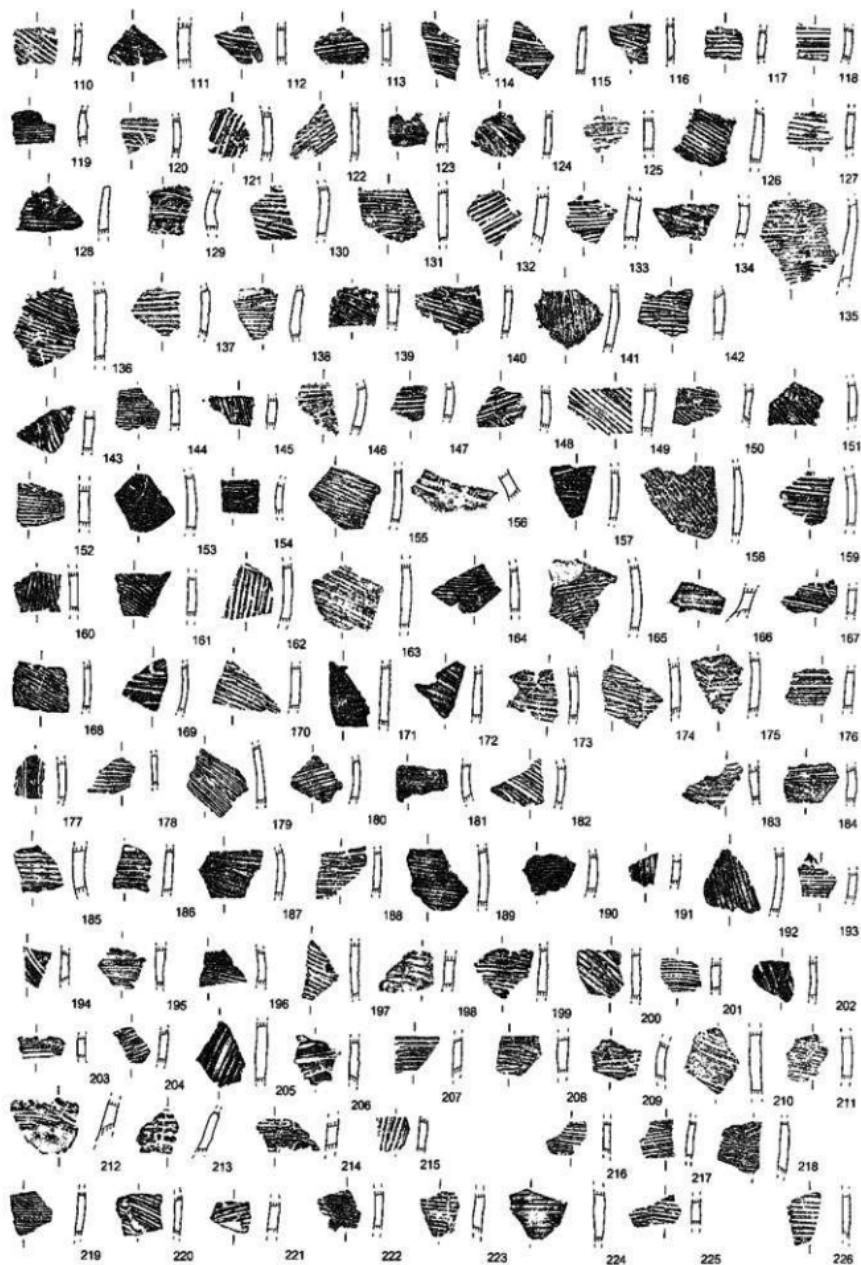


Fig.16 遺構外出土遺物 (2)



Fig.17 遼寧外出土遺物 (3)

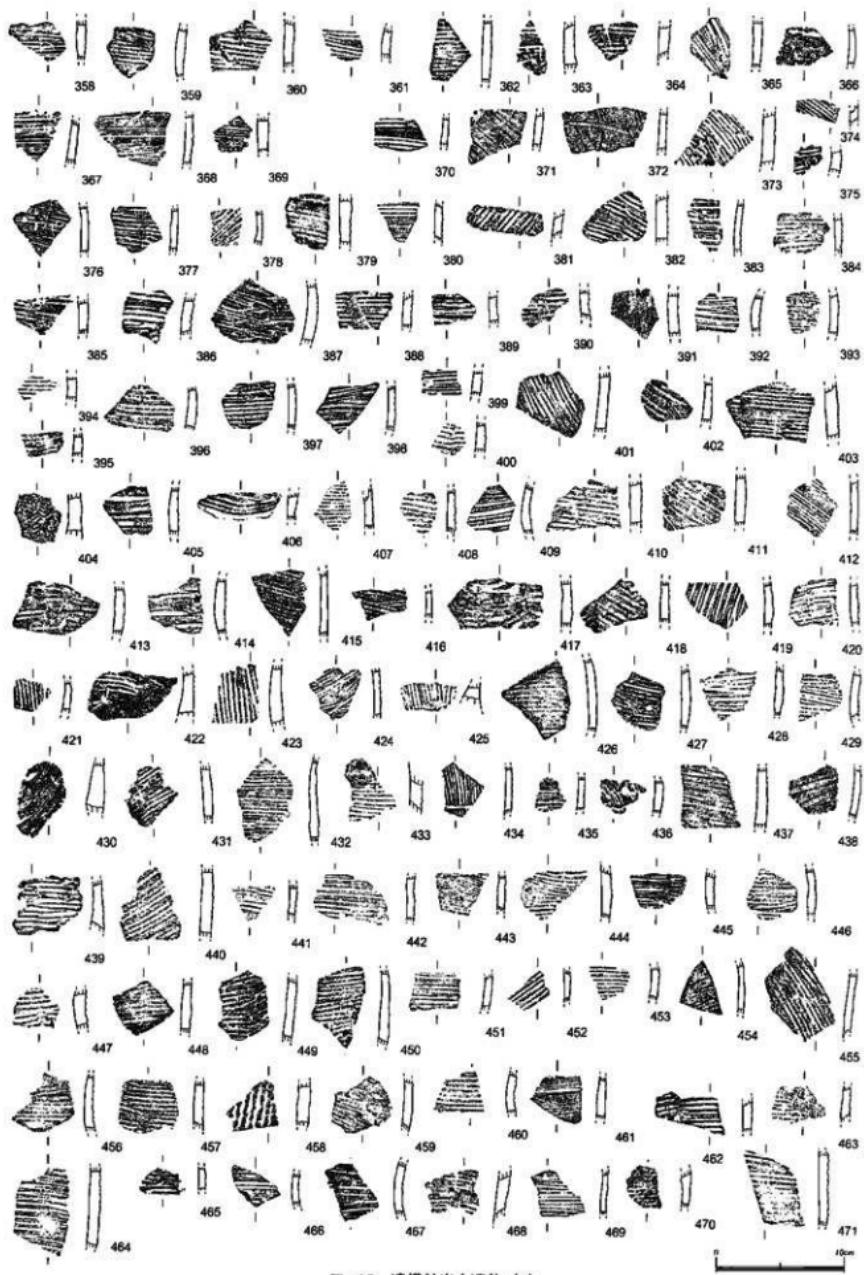
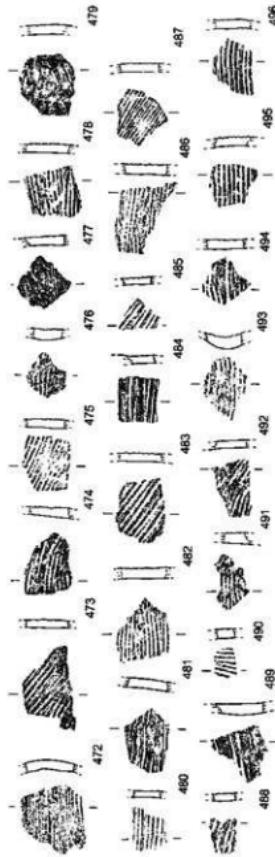
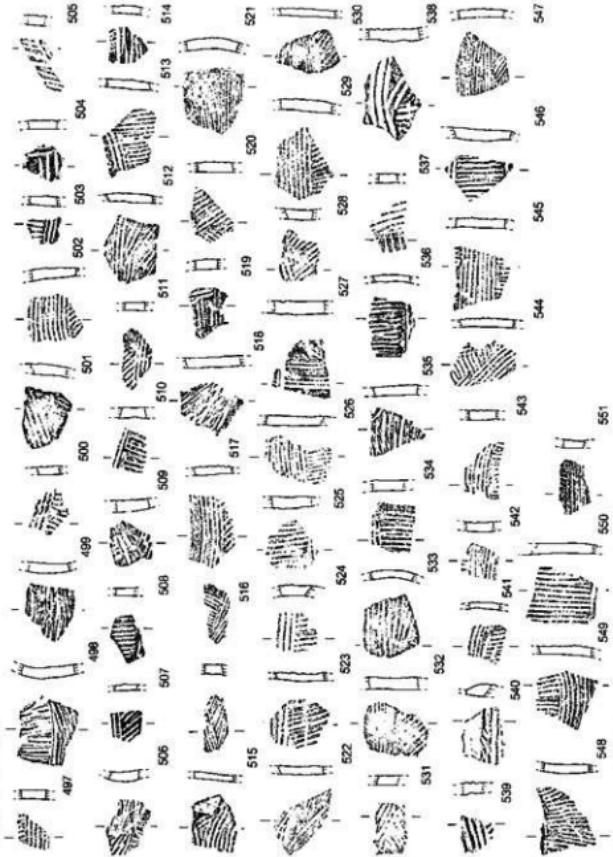


Fig.18 遺構外出土遺物 (4)



II群-2組-B組



II群-2組-C組

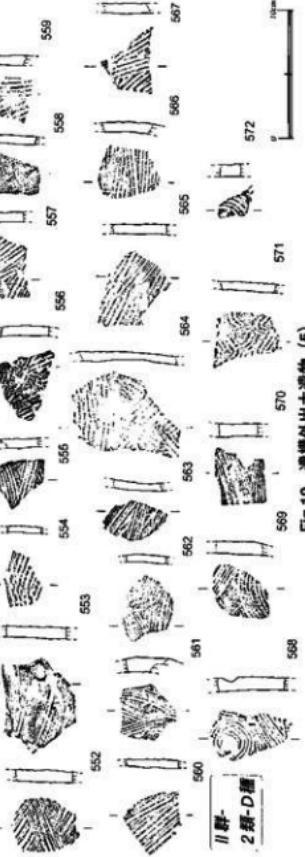


Fig.19 通稱外出土遺物(5)

II期-2號-E層

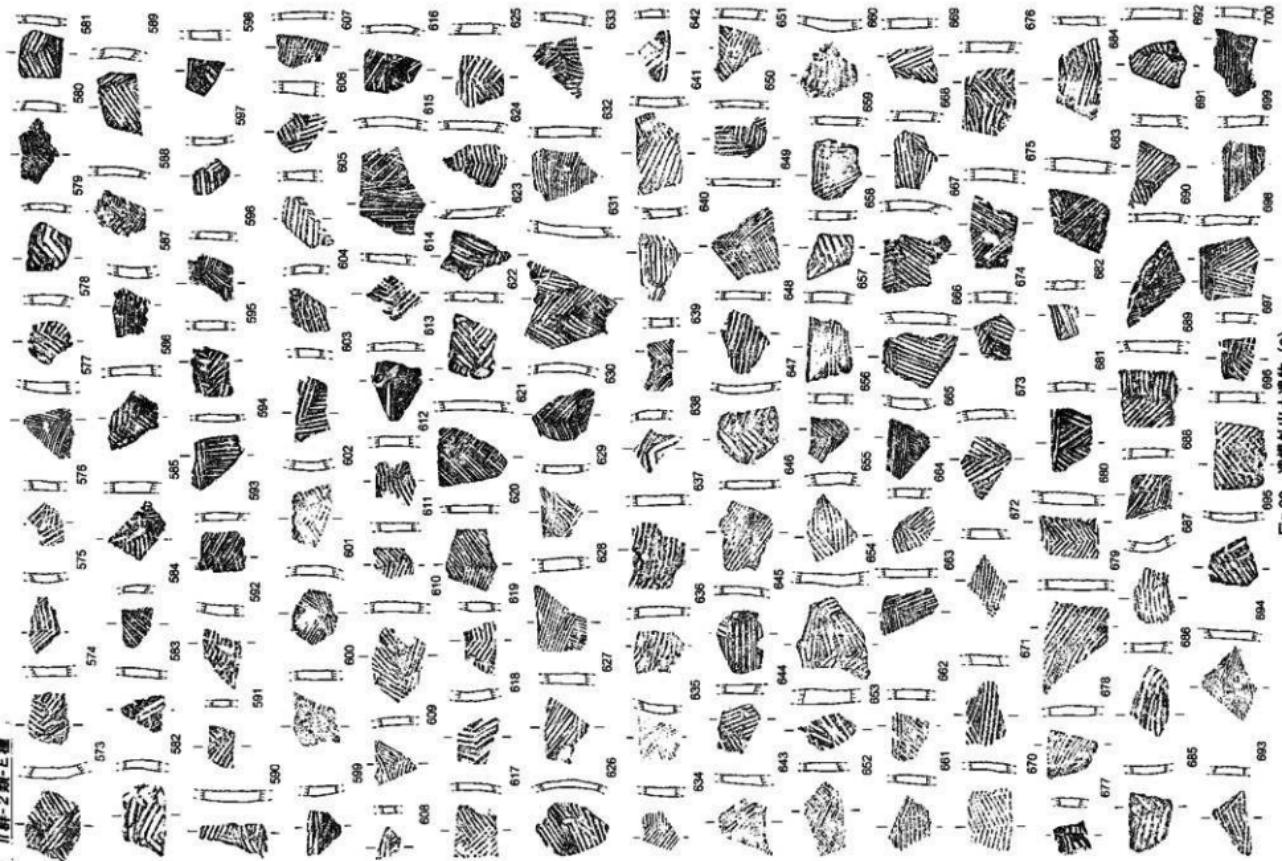
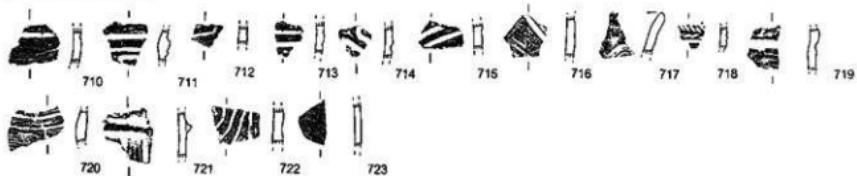


Fig.20 遷都外出土遺物 (6)



II群-2類-F種



II群-2類-G種



II群-2類-H種

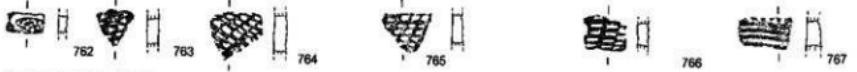
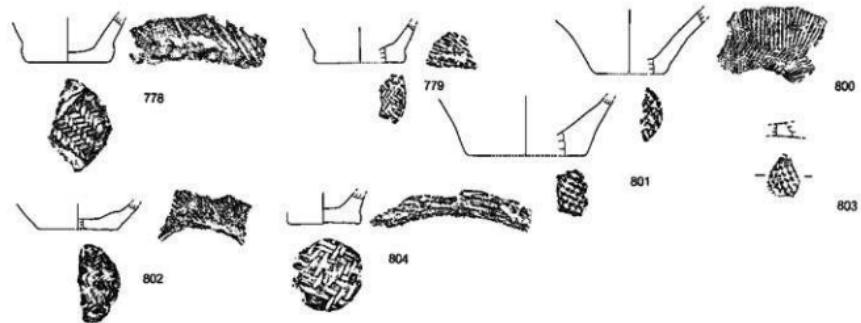
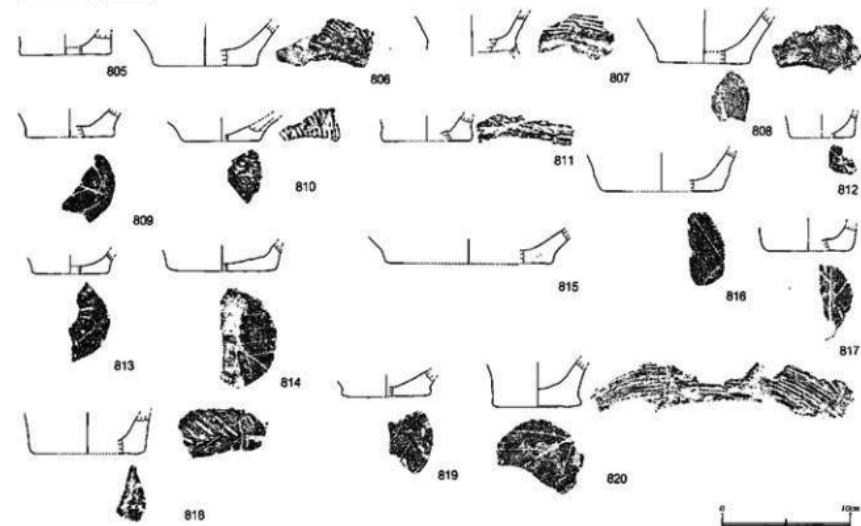


Fig.21 遺構外出土遺物 (7)



II群-3期-B種



III群-1期-A種

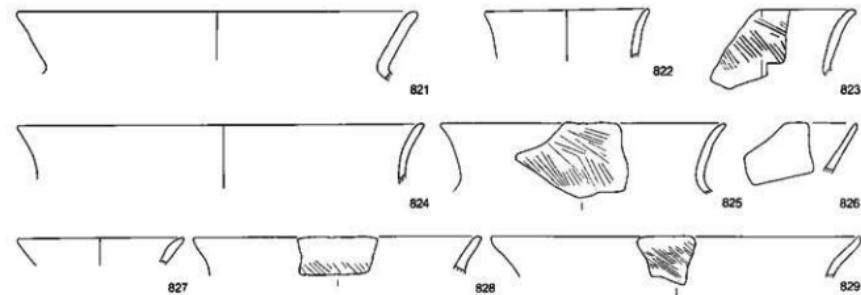


Fig.22 造構外出土遺物 (8)

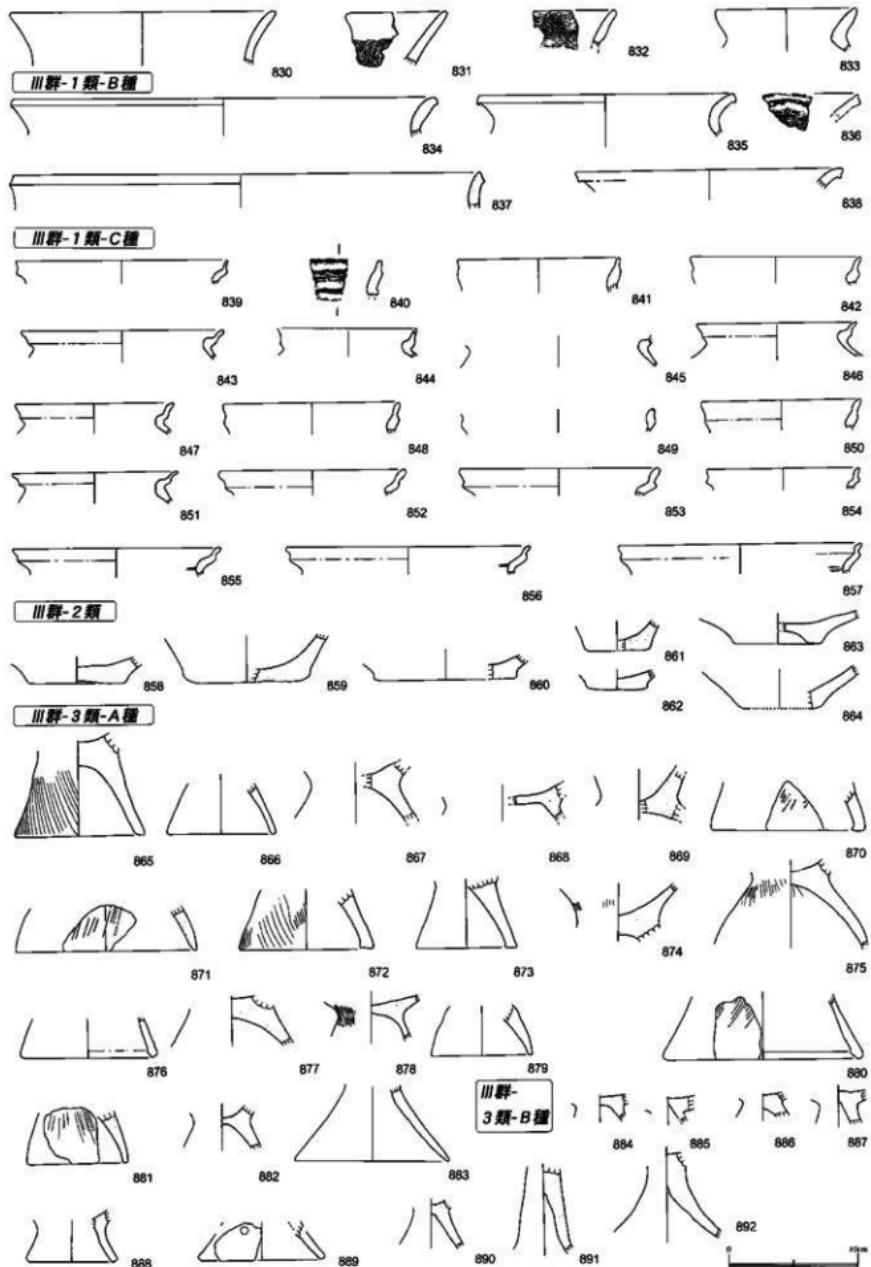
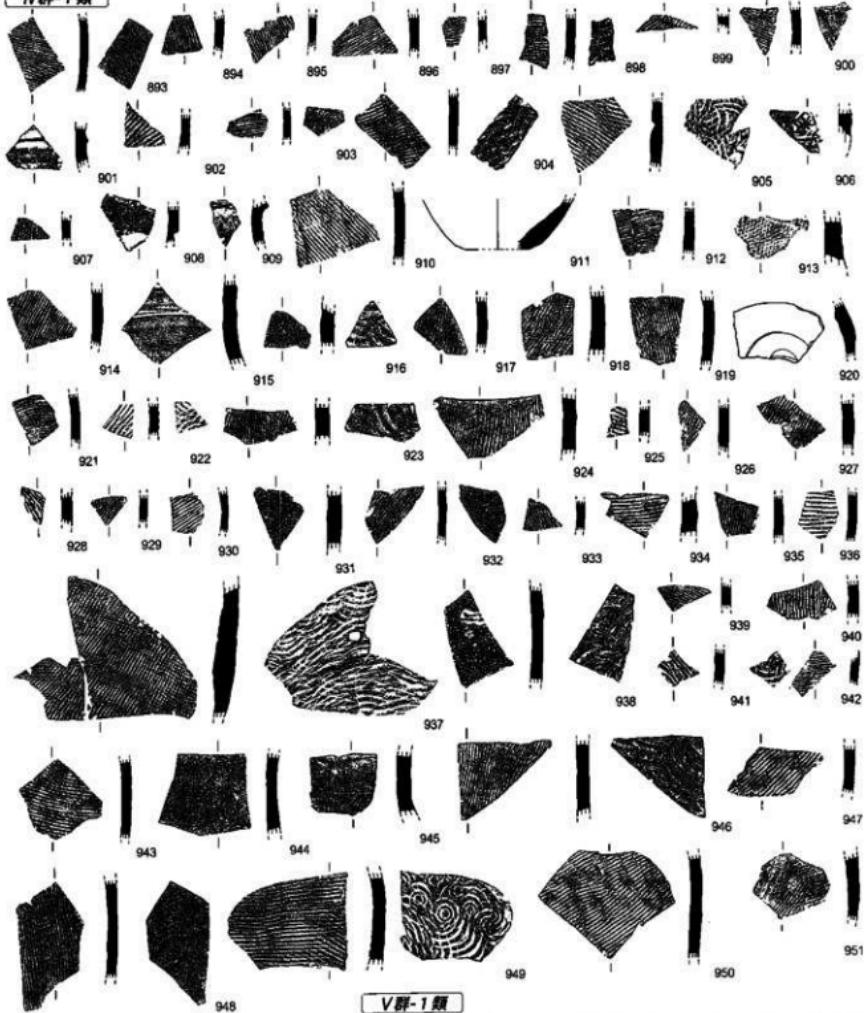


Fig.23 遺構外出土遺物 (9)

**IV群-1類**



**V群-1類**

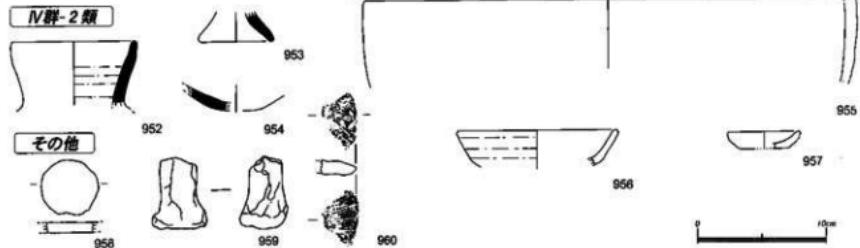


Fig.24 造構外出土遺物 (10)

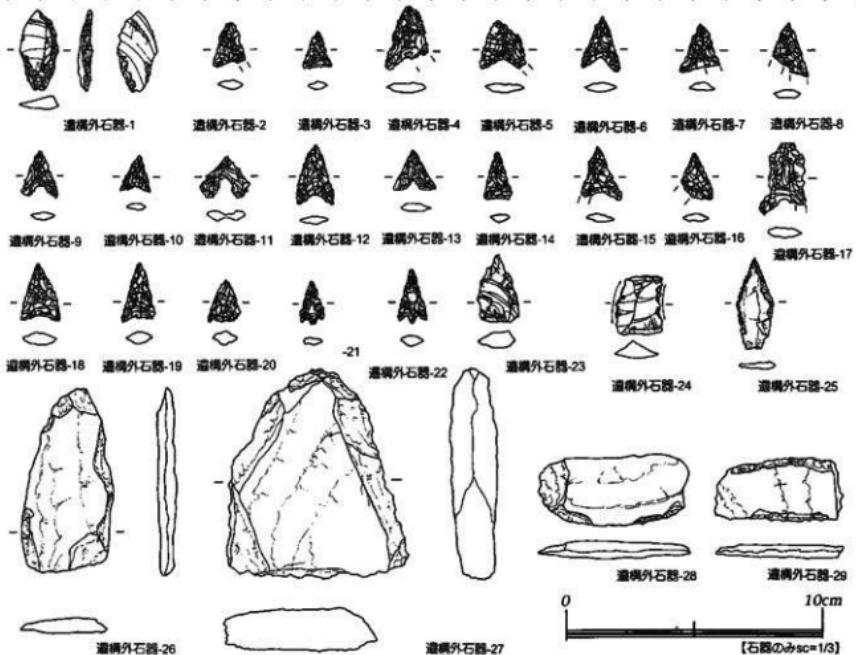
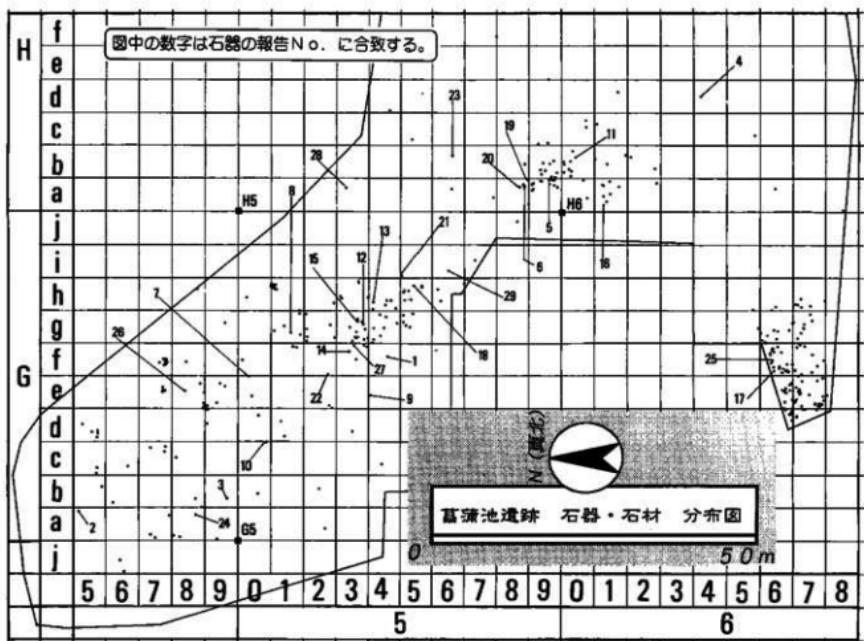


Fig.25 遺構外出土遺物 (11)

# 付編 葛蒲池遺跡 リン分析報告

パリノ・サーヴェイ株式会社

## はじめに

葛蒲池遺跡は、山梨県東八代郡中道町下向山字葛蒲池に所在し、甲府盆地南麓に広がる曾根丘陵の一角をなす米倉山（標高380m）の山頂部に位置する。

発掘調査の結果、本遺跡では弥生時代前期後葉～中期前葉に所属するとみられる土坑6基が検出されている。各土坑の形態と規模は直径1.0～1.5m程度の円形土坑で、深さはおよそ0.2～0.8mである。土坑の断面形態は箱形が主体で、底面は平坦なものが主体である。ただし、土坑によっては、断面形態が袋状にオーバーハングしているものや底面や壁面が凹凸になっているものもある。土坑から出土した遺物は弥生時代前期後葉～中期前葉の土器を中心であるが、まれに石器や剣片も検出されている。

これらの土坑には、立地や出土遺物・出土状況などから次のことが想定されている。

- ①形態と規模に共通性があることから、用途にも共通性が予測される。
- ②立地から小グループに分類でき、さらに遺物を多く含む土坑と全く含まない土坑が1つのセットとなっているよう見える。とくに第34号土坑と第44号土坑では覆土の類似性や出土遺跡や立地などからセットの可能性が高い。
- 出土遺物のうち、土器については破片が多いことから土器の使途を限定して予測することは難しい。ただし、集落址や土器の製作場所が検出されないにも関わらず、各土坑から黒曜石の剣片・石器未製品が検出されている点には、何らかの意味を考えざるを得ない。

上記の想定および所属時期や立地環境からこれらの土坑が再葬墓である可能性が考えられた。しかし、発掘調査の段階で得られた情報が少なく、不明な点が多い。

今回、山梨県埋蔵文化財センターより、これら土坑の性格、とくに墓壙の可能性についての自然科学分析調査の依頼が当社に要望された。そこで、同センターと当社で調査内容について協議した。

人骨などが確認されていない場合の遺体の存在を検証する自然科学的分析手法としては、次の2つが知られている。ひとつは、人体、特に人骨に多量に含まれ、しかも土壤中では比較的移動しにくいリン酸の含有量を測定するリン分析（竹迫、1981）である。もうひとつは、土壤中に残留する脂肪酸の組成を測定する脂肪酸分析（中野、1986など）である。現在では、後者の脂肪酸分析が動植物の判定ができる点、あるいは種類を具体的に判別できる可能性がある点で優れた面が多いといわれている。しかし、試料の取扱いと分析・解析方法が繁雑であるためにかなり専門的な知識を要し、土壤を対象にした場合のデータの信頼性にも疑問が残る。したがって、今回は分析調査事例が豊富で、分析操作が比較的簡便なリン分析を実施することにした。

## 1. 試料

分析対象遺構は弥生時代前期後葉～中期前葉の土坑6基（第31号土坑、第32号土坑、第34号土坑、第79号土坑、第80号土坑、第82号土坑）と時代不明の土坑1基（第44号土坑）の計7基である。試料は各土坑の覆土断面から上記目的に必要な採取位置を設定し、第31号土坑で7点、第32号土坑で6点、第34号土坑で9点、第79号土坑で7点、第80号土坑で4点、第82号土坑で4点、第44号土坑で5点、合計42点の土壤が採取された。詳細な採取位置は図1～7に示される各土坑のリン含有分布に記載する。なお、このような含量測定によって起源物質の検索を行う場合、含量の多少をより明確にするためには覆土本来の含量把握（比較対照試料の設定と測定）をしておく必要がある。今回は対照試料として基本層序の1～3層を設定した。分析は採取試料全て（45点）について実施した。

## 2. 分析方法

分析は、土壤標準分析・測定法委員会（1986）の「土壤標準分析・測定法」、土壤養分測定法委員会（1981）の「土壤養分分析法」、京都大学農学部農芸化学教室（1957）の「農芸化学実験書」、農林水産省技術会事務局（1967）の「標準土色帖」、ペドロジスト懇談会（1984）の「土壤調査ハンドブック」などを参考にした。以下に操作行程を示す。

試料を風乾後、軽く粉碎して2.0mmの筋を通過させる(風乾細土試料)。風乾細土試料の水分を加熱減量法(105°C、5時間)により測定する。風乾細土試料1.00gをケルダールフラスコに充てんし、はじめに硝酸(HNO<sub>3</sub>)5mLを加えて加熱分解をする。放冷後、過塩素酸(HClO<sub>4</sub>)10mLを加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、蒸留水で100mLに定容してろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸(P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>)濃度を測定する。これらの測定値と試料の水分量から、乾土あたりのリン酸含量(P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>mg/g)を求める。

### 3. 結果

測定結果を表1に、各土坑のリン含量分布を図1に示す。

#### ・基本層序

含量範囲は0.75~1.83P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>mg/gであり、上位から下位への減少傾向が認められる。とくに3層ではその減少が著しく、自然状態の黒ボク土壤でみられるリン含量の変化と同じである(暗褐色~黒褐色を呈する腐植の比較的多い上層で高く、褐色を呈する腐植の比較的少ない土壤で低い)。

土壤に通常含有されるリン含量については、次のような調査例がある。Bowen(1983)の調査では中央値が2.0P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>mg/g、Bolt・Bruggenwert(1980)では1.0~2.5P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>mg/gとされる。川崎ほか(1991)では、わが国でリン含量の比較的高い黒ボク土の平均値が未耕地で2.1P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>mg/g、既耕地で5.5P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>mg/gとされる。天野ほか(1991)ではリンの自然賦存量は2.7P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>mg/g以下とされる。なお、各調査例の記載単位が異なるため、本報告中ではリンをP<sub>2</sub>O<sub>5</sub>mg/gに換算して表示した。これらの事例から推定される土壤中のリン酸自然賦存量は、最高でも3.0P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>mg/gと考

試料番号	試料名	リン含量 P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> mg/g	土色・土性	備考
一	基本土層	1.83	暗褐色(10YR8/4)	L~CL
二		0.81	褐色(10YR2/3)	CL~HC
三		0.75	褐色(10YR2/3)	CL
1	第31号土坑 I 層	2.62	暗褐色(10YR8/4)	CL
2		2.12	褐色(10YR2/3)	CL~CL
3		2.27	褐色(10YR8/4)	CL
4		3.39	黒褐色(10YR2/3)	L~CL
5		2.37	褐色(10YR4/5)	CL
6		2.18	褐色(10YR4/5)	L
7	小木立内	3.40	黒褐色(10YR2/3)	L~CL
8	第32号土坑 I 层	4.54	暗褐色(10YR3/3)	L
9		3.90	褐色(10YR4/4)	L
10		5.34	褐色(10YR2/3)	L~CL
11		3.40	褐色(10YR2/3)	L~CL
12		5.18	褐色(10YR2/3)	L~CL
13	VII 层	2.72	褐色(10YR3/4)	CL
14	第34号土坑 I 层	4.08	黒褐色(10YR2/3)	L
15		2.43	褐色(10YR2/1)	L
16		3.11	褐色(10YR3/2)	L
17		2.75	褐色(10YR2/2)	L
18		2.08	褐色(10YR2/2)	L~CL
19		2.28	褐色(10YR2/2)	L~CL
20		2.56	褐色(10YR3/4)	L~CL
21	X 层	3.16	暗褐色(10YR3/4)	L
22	XII 层	2.27	褐色(10YR2/3)	L
23	第44号土坑 I 层	2.02	暗褐色(10YR2/3, 5)	L
24		1.39	褐色(10YR3/4)	L
25		1.39	褐色(10YR3/4)	CL
26		1.47	褐色(10YR3/4)	CL
27	VII 层	1.95	黒褐色(10YR2/2, 5)	L
28	第79号土坑 IV 层	2.27	暗褐色(10YR2/3, 5)	L
29		2.62	褐色(10YR2/2)	L
30		2.02	褐色(10YR3/4)	L~CL
31		1.89	褐色(10YR3/4)	L~CL
32		2.22	褐色(10YR2/2, 5)	L~CL
33		2.28	褐色(10YR2/2)	L~CL
34	XII 层	2.71	褐色(10YR2/2)	L~CL
35	第80号土坑 I 层	1.93	暗褐色(10YR2/2)	CL
36		2.13	褐色(10YR2/2)	CL
37		1.65	褐色(10YR2/3)	CL
38		2.24	褐色(10YR2/3)	CL
39	第82号土坑 II 层	2.10	暗褐色(10YR2/2)	CL
40		1.99	褐色(10YR2/2)	CL
41		2.07	褐色(10YR2/2)	CL
42	VII 层	1.67	黒褐色(10YR2/3)	CL

注。(1) リン酸の単位は、乾土1gあたりのmgで表示。

(2) 土色の判定は、マンセル表色系に準じた新版標準土色粘

(農林省農林水産技術会議監修、1967)による。

(3) 土性的判定は、土壤調査ハンドブック記載の野外土性の判定法

(ペドロジスト懇談会編、1984)による。

L...壤土(ある程度砂を感じ、ねばり気もある)。

砂と粘土を同じくらいに感じられる。)

CL...堆積土(わずかに砂を感じるが、かなりねばる。)

HC...重壤土(ほとんど砂を感じないで、よくねばる。)

表1 リン分析結果

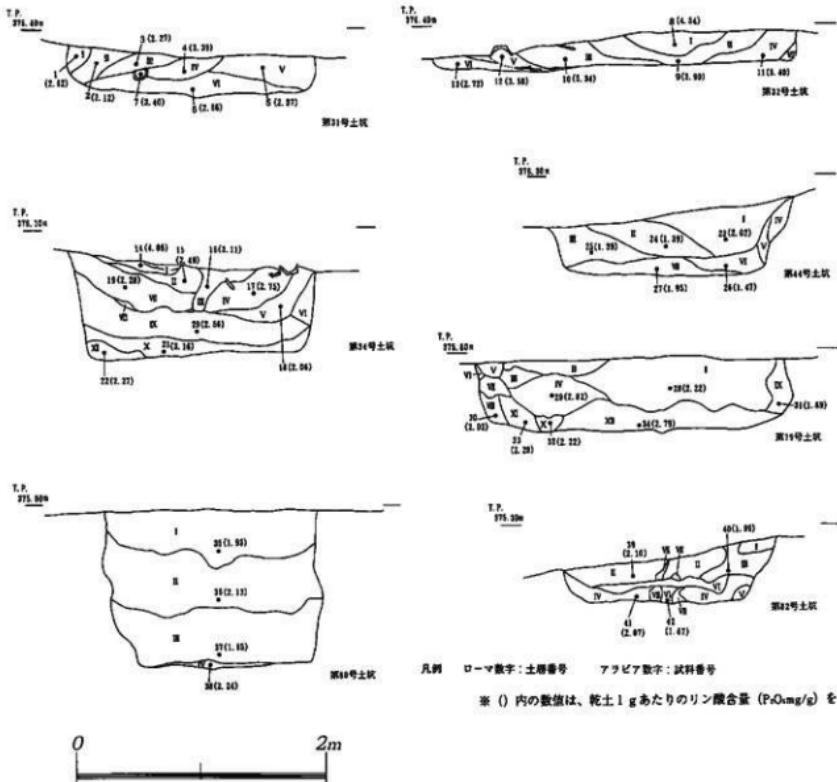


図1 第31・32・34・44・79・80号土坑 試料採取位置およびリン分析結果

えられる。言い替えれば、この値を著しく越える土壤 ( $5.0P_2O_5$  mg/g 以上の土壤) では、外的要因 (おそらく人為的影響) によるリン酸の著しい富化を指摘できる。

以上の観点から比較対照試料の結果をみれば、外的要因によるリン酸の著しい富化ではなく、この範囲の含量を本連跡の覆土本来の含量として捉えることができる。

#### ・第31号土坑

各試料の含量範囲は  $2.12 \sim 3.4 P_2O_5$  mg/g (平均値  $2.69 P_2O_5$  mg/g, CV<sup>2</sup> 19.2%) で、バラツキ是比较的小さい。基本層序の含量範囲より全体的に高く、土坑全体 (覆土42点) の平均値  $2.56 P_2O_5$  mg/g (CV33.0%) 値とほぼ同じである。その中で土坑覆土 4 層と No.1027 小型壺内覆土試料は一般的な自然賦存量の推定値を越えている。したがって、4 層と壺内には土本来以上のリン成分が外部から富化された可能性が高く、そこにリン成分の高い埋納物の痕跡が指摘される。

#### ・第32号土坑

含量範囲  $2.72 \sim 5.34 P_2O_5$  mg/g (平均値  $3.91 P_2O_5$  mg/g, CV23.5%) で、バラツキ是比较的小さい。基本層序より全体的に高く、しかも土坑全体の平均値より高い含量が認められる。また、ほとんどの試料がリン酸自然賦存量の推定値を越え、1 層と 3 層ではとくに外的要因による富化があきらかである。したがって、リン成分の高い埋納物の痕跡が指摘される。

#### ・第34号土坑

含量範囲2.06~4.08P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>mg/g（平均値2.75P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>mg/g、CV22.6%）で、バラツキは比較的小さい。基本層序より全体的に高く、土坑全体の平均値とほぼ同じ含量である点では31号土坑に類似する。その中で1層、3層、10層で自然賦存量の推定値を越え、とくに1層は外的要因による富化があきらかな含量である。したがって、リン成分の高い埋納物の痕跡が指摘される。

#### ・第44号土坑

含量範囲1.39~2.02P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>mg/g（平均値1.64P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>mg/g、CV19.1%）で、バラツキは小さい。土坑全体の平均値よりあきらかに低く、さらに基本層序の1、2層に比べても低い傾向にある。したがって、覆土内にリンの富化は認められず、リン成分の高い埋納物の痕跡を捉えることはできない。

#### ・第79号土坑

含量範囲1.89~2.82P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>mg/g（平均値2.32P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>mg/g、CV15.4%）で、バラツキは小さい。いずれも自然賦存量の推定値範囲内であるが、全体的に基本層序より高く、土坑全体の平均値より低い。また、相対的に4層と12層で高い傾向が認められる。したがって、相対的には外的要因によるリンの富化が多少想定されるものの、リン成分の高い埋納物の痕跡を指摘することは難しい。

#### ・第80号土坑

含量範囲1.65~2.24P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>mg/g（平均値1.99P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>mg/g、CV13.0%）で、バラツキは小さい。いずれも自然賦存量の推定値範囲内で、土坑全体の平均値よりも低い値である。ただし、4層で相対的に高い傾向が認められる。いずれにしろ、ここにリン成分の高い埋納物の痕跡を指摘することは難しい。

#### ・第82号土坑

含量範囲1.67~2.10P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>mg/g（平均値1.96P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>mg/g、CV10.1%）で、バラツキは小さい。80号土坑同様にいずれも自然賦存量の推定値範囲内で、土坑全体の平均値より低い値を示す。したがって、リン成分の高い埋納物の痕跡を指摘することは難しい。

\* 1：標準偏差の大小は平均値の大きさに左右されるため、統計学ではバラツキの相対尺度を変動係数として表す。

特に平均値の大きさ異なる、いくつかのものを対象にしたとき比較に便利である。また、これは無名数であるから、全く違った種類のものでも比較できる。その中で母標準偏差の変動係数を母集団の変動係数とよぶ。一般にCVで表示する。

## 4. 基礎の可能性

リン酸含量の分布から考えると、第31号土坑、第32号土坑、第34号土坑にリン成分の高い埋納物の痕跡が指摘でき、とくに32号土坑ではその可能性が大きい。

土坑の性格をひとつの分析によって判断することは早急であるが、これまでの調査事例あるいは考古学的見解から、この土坑が墓壙であった可能性は高いと言える。一方、リンの富化が認められなかった土坑についても長い年月の経過に伴う土壤環境の変化（濃集成分の移動・流亡等）を想定すれば、32号土坑などがたまたま保存が良かったのかもしれない、この結果から土坑の性格から異なるものと判断することはできない。また、第34号土坑と第44号土坑の関連性も明確にはならなかった。

ところで、第32号土坑の2層には白色物質の点在が認められ、骨粉（成分：リン酸カルシウム）である可能性が考えられた。そこで、物質の材質を調べる上で有効なX線回析分析を行った。その結果、白色物質はカルサイト（成分：炭酸カルシウム）であることが判明し、骨粉でないことが推定される。一般にカルサイトは土壤、岩石等の天然鉱物を除くと、貝殻などに多く含まれる成分である。現段階では、2層にカルサイトが混入していた要因、白色物質の起源は不明であるが、埋納物と何らかの関係があるのかもしれない。

今回の調査結果については、今後の整理作業によって得られる情報とあわせて考慮してみたい。

## <引用文献>

天野洋司・太田 健・草場 敬・中井 信（1991）中部日本以北の土壤型別蓄積リンの形態別計量。農林水産省農林水産技術会議事務局編「土壤蓄積リンの再生環境利用技術の開発」、p 28~36

Bowen, H. J. M. (1983) 環境無機化学－元素の循環と生化学－。浅見輝男・茅野充男訳、297 p.、博友社【Bowen,

- H. J. M (1979) *Environmental Chemistry of Elements* ] .  
 Blot, G. H. · Bruggenwert, M. G. M. (1980) 土壤の化学。岩田道午・三輪喜太郎・井上隆弘・陽 捷行訳、309 p、学会出版センター [Bolt, G. H. and Bruggenwert, M. G. M. (1976) SOIL CHEMISTRY] , p 124~236  
 土壤標準分析・測定法委員会編 (1986) 土壤標準分析・測定法、354 p、博文社。  
 土壤養分測定法委員会編 (1981) 土壤養分分析法、440 p、養賢堂。  
 藤賀 正 (1979) カルシウム、地質調査所化学分析法、52 : 57~61、地質調査所。  
 川崎 弘・吉田 淳・井上恒久 (1991) 九州地域の土壤型別蓄積リンの形態別計量、農林水産省農林水産技術会議事務局編「土壤蓄積リンの再生循環利用技術の開発」、149 p : p 23~27。  
 京都大学農学部農芸化学教室編 (1957) 農芸化学実験書 第1巻、411 p、産業図書。  
 中野益男 (1986) 真庭遺跡出土土器に残存する動物油脂。『真庭遺跡』配石遺構の土壤に残存する脂肪の分析、大湯 環状列石周辺遺跡発掘調査報告書、第1巻、46 p、秋田県鹿角市教育委員会。  
 農林省農林水産技術会議事務局監修 (1967) 新版標準土色帖。  
 ベドロジスト懇談会 (1984) 野外土性の判定。ベドロジスト懇談会編「土壤調査ハンドブック」、156 p、p 39~40、博友社。  
 竹迫 純・加藤哲郎・坂上寛一・黒部 隆 (1980) 神谷原遺跡への土壤学的アプローチ。神谷原 I、p 412~416、八王子市櫛田遺跡調査会。

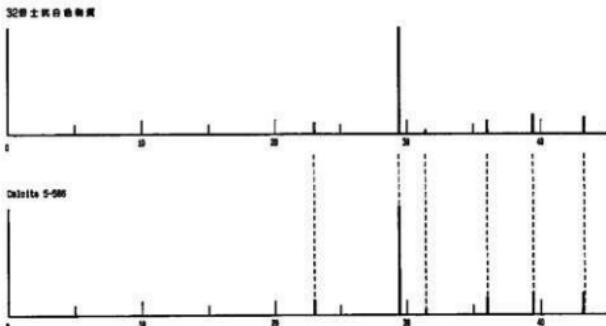


図2 第32号土坑2層検出白色物質の同定グラフ

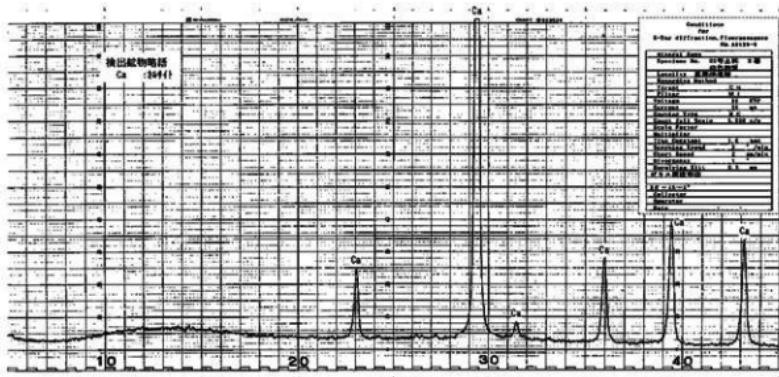


図3 第32号土坑2層検出白色物質のX線解析チャートおよび検出元素



SP031 遺物出土状況【北西→】  
底面直上から出土する遺物は少ない。



SP031 遺構検出風景【南西→】  
造構は浅く壁面はオーバーハングする。



SP031 造構半裁状況【南西→】  
画面にSP031-1（小型壺）が見える



SP032 造構半裁状況【南東→】  
SP032-1（壺）が底部を上にして出土した。



SP032 遺物出土状況【俯瞰：南東→】  
遺物は造構中心部に集中する。



SP032 完掘状況【北→】  
造構底面には小孔が多数ある。



SP034 遺物出土状況【北東→】  
覆土中より合計8.7kgもの壺が出土した。



SP079 完掘状況【南→】  
造構底面には小孔が多数ある。



SP035・033・032・073・072・031・071 全景【南西→】



SP044・034 完掘状態【南東→】  
遺物を多く含むSP034とほとんど含まないSP044が隣接して立地する。



土坑の平面実測風景



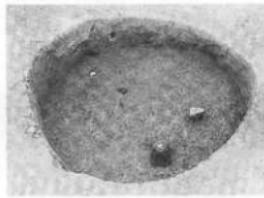
土坑の断面実測風景



土坑の写真撮影風景



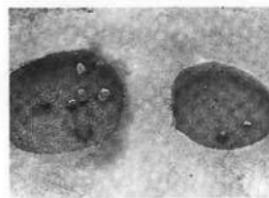
SP002 半裁状況【南→】



SP033 遺物出土状況【北西→】



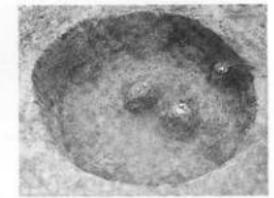
SP035 遺物出土状況【北西→】



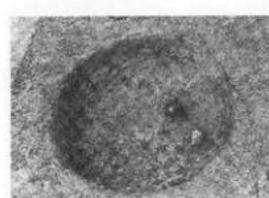
SP035・SP033 遺物出土状況【北西→】



SP036 完掘状態【南→】  
遺構中央部よりSP036-1(石器)が出土した。



SP038 遺物出土状況【南→】



SP040 遺物出土状況【西→】



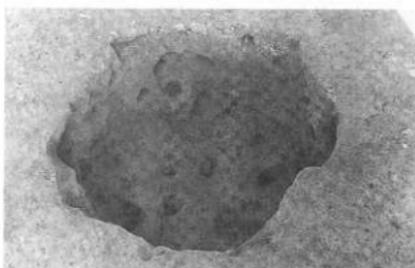
SP072 完掘状態【南西→】  
手前がSP072、奥の円形土坑はSP031である。



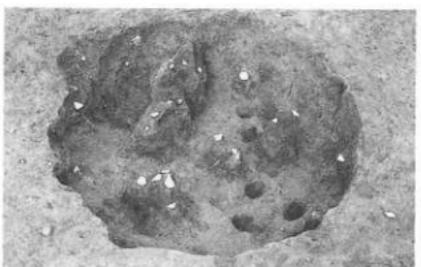
SP073 完掘状態【南→】  
中央がSP073、奥がSP032である。



SP080 遺物出土状況【南→】  
覆土上層部が最も多くの遺物を含む。



SP080 完掘状況【南→】  
遺構底面・壁面には小孔が多數ある。



SP082 遺物出土状況【南→】  
遺物は覆土下層に集中する。



SP082 完掘状況【南→】  
遺構底面には小孔が規則的に並ぶ。



菖蒲池遺跡 第2調査区全景【東→】  
土坑群が中央の小谷を取り巻くように立地している。写真奥に甲府盆地南部を望む。



菖蒲池遺跡 第2調査区全景【西→】  
中央の小谷への緩斜面に土坑が集中する。写真奥に御坂山系の山々を望む。



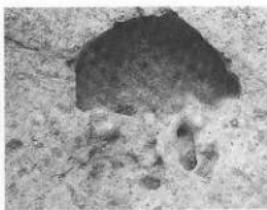
菖蒲池遺跡 第2調査区全景【南西→】  
第2調査区は米倉山山頂（標高380.8m）より南側にやや下った位置にある。



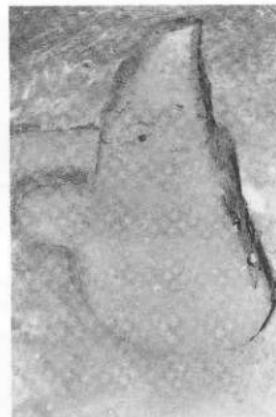
菖蒲池遺跡 第1・2調査区全景【東上空→】  
手前が第2調査区、奥が第1調査区である。写真右奥が米倉山山頂である。



SP078 完掘状況【北西→】  
SD001と重複し、SD001の方が古い。



SP083 完掘状況【南→】  
SD002と重複し、SD002の方が新しい。



SD001 完掘状況【南西→】  
SP038と重複し、SD001の方が古い。



SP084 碓出土状況【西→】  
遺構内側に礫が集中する。



SP084 完掘状況【西→】  
東側底面から壁面にかけて小孔が集中する。



土坑の平面実測風景



菖蒲池跡 第2調査区調査風景【南東→】  
中央の小谷には廃棄物の運動を含むと思われる跡がよく発見していた。



SD002 完掘状況【西→】  
標高375mの等高線に沿うように横走する。



SX001 碓出土状況(1)【南→】



SX001 碓出土状況(2)【南→】



SX001 碓出土状況(3)【東→】



SX002 碓出土状況(1)【西→】



SX002 碓出土状況(2)【南→】



SX002 碓出土状況(3)【南→】



菖蒲池遺跡 発掘調査前全景【南→】  
調査区域は糞畑・果樹園等に利用されていた。



菖蒲池遺跡第3調査区 調査風景【北西→】  
水が湧く谷状の落ち込みには多量の遺物が集中していた。



菖蒲池遺跡第3調査区 調査風景【北→】  
H5-a7Gridの周辺からは古墳時代前期の遺物が集中して出土した。



菖蒲池遺跡第3調査区 調査風景【北東→】  
取り上げ時には遺物収納袋で足の踏み場もないほど遺物が集中して出土した。



菖蒲池遺跡 試掘調査風景【北西→】



菖蒲池遺跡内の湧水地【北西→】



菖蒲池遺跡第2調査区 調査風景【東→】



菖蒲池遺跡第2調査区 調査風景【東→】



菖蒲池遺跡第2調査区 調査風景【北西→】



菖蒲池遺跡第4調査区 全景【東→】



菖蒲池遺跡第3調査区 調査風景【南東→】

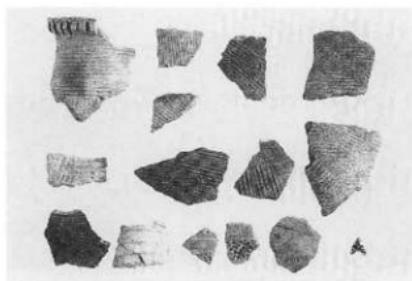


菖蒲池遺跡 調査終了全景【北西→】



菖蒲池遺跡 発掘調査参加メンバー

Pl. 6 遺物一 1



SP031 出土遺物（1以外）



SP031 出土遺物（1）



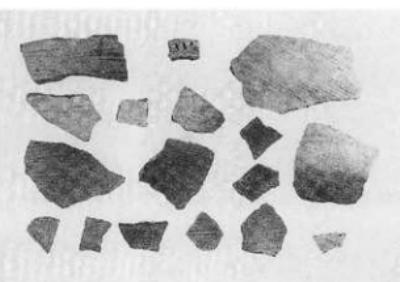
SP031 出土遺物（1）



SP031 出土遺物（1）



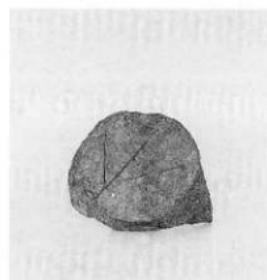
SP032 出土遺物（1）



SP032 出土遺物（1以外）



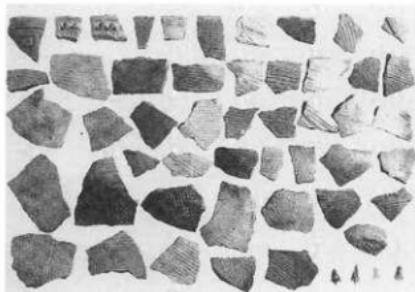
SP032 出土遺物（48）



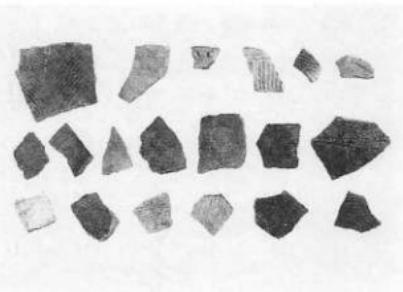
SP034 出土遺物（48）



SP034 出土遺物（54）



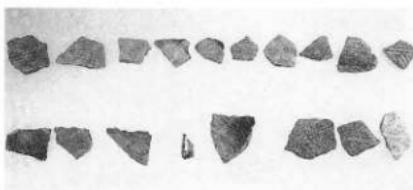
SP034 出土遺物 (48.54以外)



SP079 出土遺物



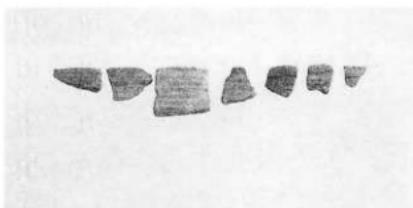
SP080 出土遺物



SP082、SP033、SP044、SP084、SP036 出土遺物



I 群（縄文時代の土器）



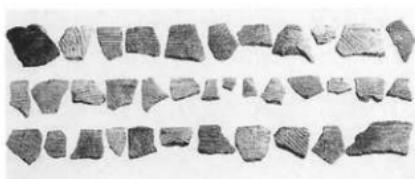
II 群 1 類 A 種（口縁端部下に沈線が横走するもの）



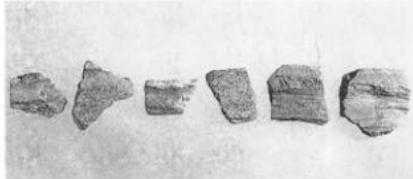
I 群 1 類 B 種（口端部直下に刻みを施す突帯が巡るもの）



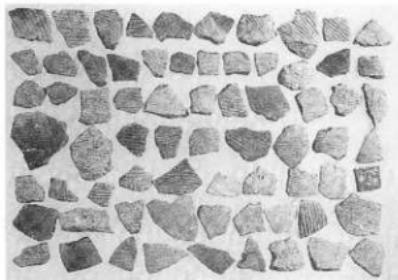
II 群 1 類 C 種（口縁端部上に刻みあるいは刻実文が施されるもの）



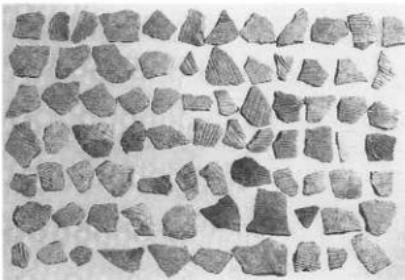
II 群 1 類 D 種（尖口縁で口縁端部の直下から条痕文が施されるもの）



II 群 1 類 E 種（厚手の丸口縁端部の直下に段部・突帯が巡るもの）



II群2類A種（單一方向の条痕文が施されるもの）①



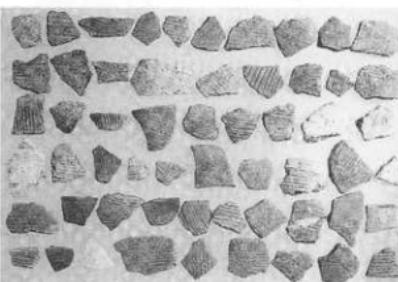
II群2類A種（單一方向の条痕文が施されるもの）②



II群2類A種（單一方向の条痕文が施されるもの）③



II群2類A種（單一方向の条痕文が施されるもの）④



II群2類A種（單一方向の条痕文が施されるもの）⑤



II群2類A種（單一方向の条痕文が施されるもの）⑥



II群2類B種（複数方向と横あるいは斜方向の条痕文が接して共存するもの）



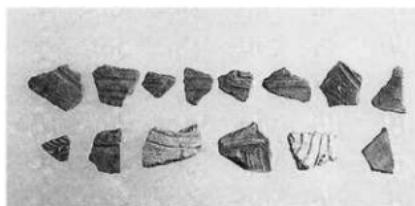
II群2類C種（複数方向の条痕文が施され、各々が交差するもの）



II群2類D種（曲線あるいは円形の条痕文が施されるもの）



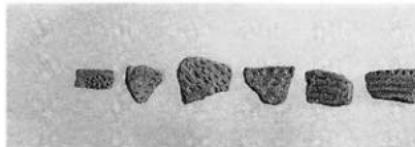
II群2類E種（羽伏の条痕文が施されるもの）



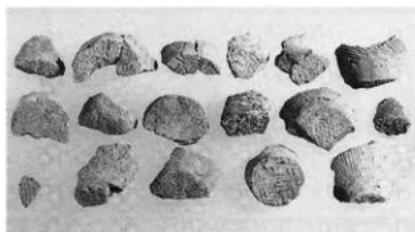
II群2類F種（沈線文が施されるもの）



II群2類G種（縹文が施されるもの）



I群2類H種（刺突文が施されるもの）



II群3類A種（網代痕の残るもの）



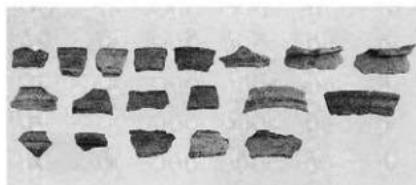
II群3類B種（網代痕の残らないもの）



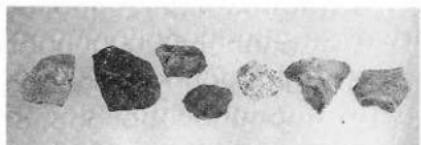
III群1類A種（単口縁かつ丸口縁のもの）



III群1類B種（口縁端部に面をもつもの）



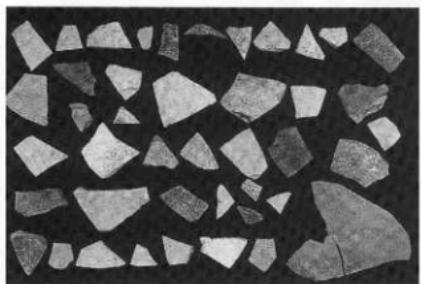
III群1類C種（S字状口縁台付縁の口縁部）



III群 2類 (底部)



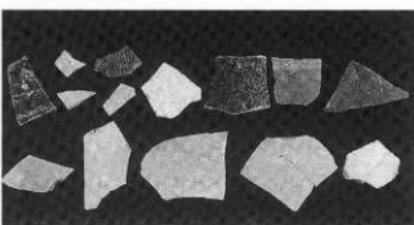
III群 3類B種 (高坏の脚部)



IV群 1類 (古墳時代の須恵器壺類)



III群 3類A種 (台付甌の台部)



IV群 1類 (古墳時代の須恵器壺類)



IV群 2類 (古墳時代の須恵器甌以外)



その他の土製品



石 器



V群 2類 (近世以降の陶磁器類)

報告書抄録	
ふりがな	しょうぶいけいせき
書名	菖蒲池遺跡
副題	米倉山ニュータウン建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第119集
著者	森原明廣
発行機関	山梨県教育委員会・山梨県土地開発公社
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター
所在地／電話	400-1508 山梨県東八代郡中道町下曾根923 電話.055-266-3016
印刷所	株式会社 ヨネヤ
発行日	平成8年(1996年)3月31日
遺跡概要	
ふりがな	やまなしけん ひがしやつしきぐん なかみちまち しもむこうやま あざ しょうぶい
所在地	山梨県東八代郡中道町下向山字菖蒲池
位置	北緯35°35'15" 東経138°34'15"
調査原因	米倉山ニュータウン建設に伴う発掘調査
調査期間	平成4年(1992年)5月6日～同年12月25日
調査機関	山梨県埋蔵文化財センター
調査面積	7,000m <sup>2</sup>
時期	弥生時代中期初頭および古墳時代前期
主な遺構	土坑19基、溝2条、集石2基
主な遺物	土器(縄文時代・弥生時代中期・古墳時代前期ほか) 石器(旧石器時代・縄文時代・弥生時代)
特記事項	弥生時代中期初頭の豊壙の可能性のある土坑あり。 弥生時代中期初頭の条痕文土器が多数出土。 古墳時代前期の遺物集中あり。

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第119集

菖蒲池遺跡

-米倉山ニュータウン建設に伴う発掘調査報告書-

印刷日 1996年3月20日  
 発行日 1996年3月31日  
 編集 山梨県埋蔵文化財センター  
 発行 山梨県教育委員会・山梨県土地開発公社  
 印刷 株式会社ヨネヤ

